

0001

6-1 施工計画・工程管理 > 施工計画・施工手順 | 難易度：基礎

給水装置工事の施工計画を作成する目的として最も適切なのはどれか。

- ア．現場条件を踏まえ、工法・工程・品質・安全・施工体制を事前に整理して適正施工につなげる。
- イ．施工計画は現場着手後に実績を記録するためだけの書類である。
- ウ．工事費を最小にすることだけを目的とする。
- エ．水道事業者の施工条件を確認せず、施工者の経験だけで工法を固定する。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。施工計画は調査結果と施工条件を基に、工法・工程・品質・安全・体制を整合させるために作成する。
イ：不適切。着工前から活用する計画資料である。
ウ：不適切。品質・安全・工程等も含めて計画する。
エ：不適切。水道事業者の施工指針や現場条件を確認する。

総合解説：施工計画は、調査結果と施工条件を基に工法、手順、工程、品質、安全、体制を整合させるための基本資料である。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0002

6-1 施工計画・工程管理 > 施工計画・施工手順 | 難易度：標準

道路内で給水管を新設する工事の着手前調査として、最も優先して確認すべき組合せはどれか。

- ア．作業員の私的な通勤経路だけ。
- イ．地下埋設物、道路・交通条件、配水管位置、施工時間等の現場条件。
- ウ．施工会社の広告掲載予定とSNS投稿時間。
- エ．完成後の需要者アンケートだけ。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。施工条件の確認にはならない。
イ：適切。施工方法や安全対策を決める基礎情報である。
ウ：不適切。現場施工条件とは無関係である。
エ：不適切。着工前には地下埋設物や交通条件等を具体的に把握する必要がある。

総合解説：給水装置工事では、配水管や他埋設物の位置、道路・交通規制、周辺環境、施工時間などを事前に把握して施工計画に反映する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0003

6-1 施工計画・工程管理 > 施工計画・施工手順 | 難易度：標準

道路部での給水管工事の一般的な施工手順として最も適切なのはどれか。

- ア．先に掘削し、地下埋設物が出てから許可や協議を始める。
- イ．配管後すぐに埋め戻し、必要な検査はすべて数か月後に行う。
- ウ．必要な協議・保安施設設置・埋設物確認を行った後に掘削し、配管・検査確認・埋戻し・路面復旧へ進む。
- エ．路面復旧後に初めて交通保安施設を設置する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。必要な協議・確認は着手前に行う。
- イ：不適切。埋設前に必要な確認・試験を行う。
- ウ：適切。安全確保と品質確認を組み込んだ基本的な流れである。
- エ：不適切。保安施設は施工中の安全確保のため事前に設置する。

総合解説：施工手順は、必要な事前協議と保安対策、埋設物確認、掘削、配管、試験・確認、埋戻し・復旧の順に組み立てるのが基本である。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0004

6-1 施工計画・工程管理 > 施工計画・施工手順 | 難易度：応用

施工計画段階で工法を選定する考え方として適切なのはどれか。

- ア．前回と同じ工事名であれば現場調査をせず同じ工法を採用する。
- イ．工期だけを基準にし、埋設物への影響は考慮しない。
- ウ．作業員が慣れている工法なら、設計・施工条件に反しても優先する。
- エ．土質、地下埋設物、交通量、施工空間、給水管材料等の条件を比較し、安全性と品質を確保できる工法を選ぶ。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。現場条件は工事ごとに異なる。
- イ：不適切。周辺施設と安全への影響を考慮する。
- ウ：不適切。設計条件や関係基準に適合させることが前提である。
- エ：適切。現場条件と材料特性を総合して工法を選定する。

総合解説：給水装置工事の工法は、現場条件、材料特性、周辺埋設物、交通、安全、品質を総合して決定する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0005

6-1 施工計画・工程管理 > 施工計画・施工手順 | 難易度：標準

断水時間が指定された切替工事の施工計画として最も適切なものはどれか。

- ア．関係者と事前に工程・役割・資機材・予備対応を確認し、指定時間内に確実に完了できる手順を組む。
- イ．断水開始後に必要な資材の在庫を確認する。
- ウ．作業順序は現場で初めて決め、事前打合せを行わない。
- エ．工程遅延を避けるため検査工程を省略する。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。時間制約のある工事では事前段取りと関係者調整が重要である。
- イ：不適切。必要資材は事前確認する。
- ウ：不適切。時間制約のある工事ほど事前打合せが必要である。
- エ：不適切。工期を理由に必要な品質確認を省略してはならない。

総合解説：断水・布設替など施工時間が限定される工事では、事前打合せと綿密な工程計画により、品質・安全を維持したまま指定時間内の完了を図る。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0006

6-1 施工計画・工程管理 > 施工計画・施工手順 | 難易度：基礎

掘削中に図面にない管路が現れ、管理者が不明であった。最も適切な対応はどれか。

- ア．不要な管と推定して直ちに切断する。
- イ．作業を安全な状態で止め、関係機関に照会するなどして管理者・用途を確認してから対応する。
- ウ．埋戻しで隠せば問題ないので記録しない。
- エ．給水管より細ければ支障物として破壊してよい。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。重大事故につながる。
- イ：適切。不明埋設物を推測で処理せず確認を優先する。
- ウ：不適切。未確認のまま処理してはならない。
- エ：不適切。外観や管径だけで用途を判断しない。

総合解説：不明埋設物を発見した場合は安易に処置せず、関係機関への照会等により十分に調査し、安全を確保する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0007

6-1 施工計画・工程管理 > 施工計画・施工手順 | 難易度：標準

断水を伴う給水装置工事の計画で重要な事項として適切なものはどれか。

- ア．断水は短時間なら利用者へ一切知らせなくてよい。
- イ．利用者への周知よりも施工会社内部の都合だけを優先する。
- ウ．水道事業者等と調整し、必要な範囲・時間・連絡方法を整理して関係者へ事前周知する。
- エ．断水範囲は工事当日に作業員個人が決める。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。必要な周知を行う。
- イ：不適切。需要者への影響を考慮する。
- ウ：適切。断水は需要者に直接影響するため事前調整が必要である。
- エ：不適切。事前に水道事業者等と確認する。

総合解説：断水を伴う工事は、水道事業者・需要者等への連絡、施工時間、復旧手順を事前に整理して実施する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0008

6-1 施工計画・工程管理 > 施工計画・施工手順 | 難易度：応用

可燃性物質を輸送する埋設管の近くで切断機等の火気を伴う機器を使う可能性がある。施工計画として適切なものはどれか。

- ア．埋設管に触れなければ無条件で火気使用してよい。
- イ．消火器が1本あれば他の確認は不要である。
- ウ．火気作業の可否は作業員個人の判断だけで決める。
- エ．原則として火気を避け、やむを得ない場合は関係機関と協議し必要な保安措置を定める。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。火災・爆発リスクを考慮する。
- イ：不適切。関係機関との協議等も必要となる場合がある。
- ウ：不適切。施工計画と関係者調整に基づき管理する。
- エ：適切。火気に弱い埋設物の近傍では事前協議と保安措置が必要である。

総合解説：火気に弱い埋設物や可燃性物質の輸送管等へ接近する場合は、火気使用を避けることを基本とし、必要時は関係機関と協議して保安措置を講じる。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0009

6-1 施工計画・工程管理 > 施工計画・施工手順 | 難易度：基礎

着工後の試掘で、想定より地下埋設物が密集していることが判明した。適切な施工管理はどれか。

- ア．当初計画を固定せず、工法・工程・安全対策を再検討し、必要な協議や計画変更を行う。
- イ．工程遅延を避けるため当初図面どおり強行する。
- ウ．埋設物に損傷が出た場合だけ計画を見直す。
- エ．現場条件の変化は完成図にだけ記載し、施工方法は変更しない。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。新たなリスクを施工計画へ反映する。
- イ：不適切。事故前にリスクを評価して見直す。
- ウ：不適切。事故発生前に対策する。
- エ：不適切。施工中の安全確保に直結する。

総合解説：施工計画は現場条件の変化に応じて見直す。埋設物密集など新たなリスクが判明した場合は、事故防止を優先して工法・工程・対策を再検討する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0010

6-1 施工計画・工程管理 > 施工計画・施工手順 | 難易度：標準

道路上の工事で作業場を柵や保安施設により区分する主な目的はどれか。

- ア．作業員の休憩場所を広く見せるため。
- イ．施工区域と一般交通・歩行者動線を明確に分け、第三者が危険区域へ進入することを防ぐ。
- ウ．道路占用範囲を必要以上に拡大するため。
- エ．工事標識を省略する代わりに囲うため。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。主目的ではない。
- イ：適切。公衆災害防止の基本措置である。
- ウ：不適切。必要な作業場を安全に区分する。
- エ：不適切。必要な標識等も併せて設置する。

総合解説：作業場の区分は、公衆と工事区域を分離して接触・転落などの公衆災害を防ぐ基本的な措置である。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0011

6-1 施工計画・工程管理 > 施工計画・施工手順 | 難易度：基礎

施工計画における作業員配置として適切なものはどれか。

- ア．資格や技能に関係なく全作業を全員が交代で行う。
- イ．経験の浅い作業員ほど危険作業を単独で担当させる。
- ウ．作業内容と危険性、技能・経験、確保可能な人数を踏まえて役割を配置する。
- エ．人員不足なら安全監視担当を最初に削減する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。資格・技能を要する作業がある。
- イ：不適切。必要な指導・監督が必要である。
- ウ：適切。作業内容と技能・経験に応じた適正配置が必要である。
- エ：不適切。安全に必要な体制を確保する。

総合解説：安全施工技術指針は、確保できる作業員数を考慮した計画とし、技能・経験等を踏まえて適正配置する考え方を示している。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0012

6-1 施工計画・工程管理 > 施工計画・施工手順 | 難易度：標準

配管を埋め戻す前の施工手順として重要なものはどれか。

- ア．検査は完成後に地表から推定すればよい。
- イ．工程短縮のため写真・試験記録を一律に省略する。
- ウ．不適合があっても埋め戻せば保護されるためは正しくない。
- エ．埋設後に確認できなくなる接合部・配管状態について、必要な検査や記録を済ませてから次工程へ進む。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。施工中の実確認が必要である。
- イ：不適切。不可視部ほど記録が重要である。
- ウ：不適切。不適合は是正してから次工程へ進む。
- エ：適切。不可視部を埋設前に確認する。

総合解説：施工手順には検査・記録のタイミングを組み込み、埋設後に確認困難となる部分を施工中に確実に確認する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0013

6-1 施工計画・工程管理 > 工程管理・施工体制 | 難易度：標準

工程管理の主な目的として最も適切なのはどれか。

- ア．施工条件と各作業の順序・期間を管理し、品質と安全を確保しながら予定工期内の完成を図る。
- イ．工期を守るため品質検査を減らすことである。
- ウ．作業員を常に最大人数投入することである。
- エ．工程表は発注者向けの表示物で、施工管理には使わない。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。工程・品質・安全は相互に関連して管理する。
イ：不適切。必要な品質管理を省略してはならない。
ウ：不適切。作業内容に応じた適正配置が必要である。
エ：不適切。計画と実績の比較に用いる。

総合解説：工程管理は、作業の前後関係と進捗を管理し、品質・安全を損なわずに工期を確保するために行う。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0014

6-1 施工計画・工程管理 > 工程管理・施工体制 | 難易度：応用

降雨により掘削作業が遅れ、予定工程との差が生じた。適切な対応はどれか。

- ア．遅れを取り戻すため地山の安全確認を省略する。
- イ．影響する後続作業を確認し、安全・品質を維持できる範囲で人員・順序・施工時間等を再調整する。
- ウ．遅延を隠すため実績工程を計画値に書き換える。
- エ．後続業者へ連絡せず、予定どおり来場させる。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。安全確認は省略できない。
イ：適切。遅延原因と影響を把握して安全な範囲で工程を見直す。
ウ：不適切。実績は正確に記録する。
エ：不適切。関係者との調整が必要である。

総合解説：工程遅延時は、原因と影響を把握し、関係者と調整して安全・品質を確保できる現実的な工程へ見直す。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0015

6-1 施工計画・工程管理 > 工程管理・施工体制 | 難易度：標準

夜間の指定時間内に配水管分岐を完了する工事で、工程管理上最も重要な対応はどれか。

- ア．作業開始時刻まで工程を決めない。
- イ．指定時間を超えそうでも無断で作業を継続する。
- ウ．水道事業者や関連事業者と事前打合せし、作業順序・人員・資機材・連絡体制を確認する。
- エ．予備資材を用意すると工程が長くなるので持ち込まない。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。事前計画が必要である。
- イ：不適切。必要な連絡・調整を行う。
- ウ：適切。時間制約のある工事は事前段取りが特に重要である。
- エ：不適切。手戻り防止の準備が有効である。

総合解説：時間制約がある工事は、事前打合せと段取りを具体化し、関係者との連携のもとで円滑に工程を進める。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0016

6-1 施工計画・工程管理 > 工程管理・施工体制 | 難易度：基礎

施工体制を定める際の考え方として適切なものはどれか。

- ア．現場で誰が責任者かを決めず、その都度多数決で判断する。
- イ．危険作業だけは指揮命令系統をなくして個人判断に任せる。
- ウ．施工体制は会社の組織図と同じであれば現場条件を考慮しなくてよい。
- エ．現場責任者、担当技術者、作業者、交通誘導等の役割と指揮命令・連絡経路を明確にする。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。責任者を明確にする。
- イ：不適切。危険作業ほど指示系統が重要である。
- ウ：不適切。現場ごとの条件を反映する。
- エ：適切。役割と責任、連絡経路を明確にする。

総合解説：施工体制では、各担当の役割、責任、指揮命令、緊急連絡の経路を明確にすることが工程・安全管理の基礎となる。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0017

6-1 施工計画・工程管理 > 工程管理・施工体制 | 難易度：標準

当日の作業前打合せで確認する内容として最も適切なのはどれか。

- ア．当日の作業内容、危険箇所、担当、工程上の注意、緊急時連絡等を関係者で共有する。
- イ．作業員の私的予定だけを確認する。
- ウ．前日の進捗だけ確認し、安全上の変更点は扱わない。
- エ．全員経験者なら打合せを行わない。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。作業条件と危険事項を共有する。
- イ：不適切。現場管理事項ではない。
- ウ：不適切。変更点を共有する。
- エ：不適切。経験にかかわらず当日の条件共有が重要である。

総合解説：作業前打合せは、作業内容・役割・危険要因・工程条件を共有し、施工体制を実効的に機能させる。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0018

6-1 施工計画・工程管理 > 工程管理・施工体制 | 難易度：応用

工程表の実績管理として適切なのはどれか。

- ア．計画工程表は着工後に更新も確認もしない。
- イ．計画と実績の差を継続的に把握し、遅延や先行が後続工程に与える影響を確認する。
- ウ．実績が遅れても完成日に間に合えば原因分析は不要である。
- エ．実績は予定より遅い場合だけ記録し、早い場合は記録しない。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。実績と比較して管理する。
- イ：適切。差異を把握して工程調整へつなげる。
- ウ：不適切。原因把握は再発防止や調整に役立つ。
- エ：不適切。客観的に実績を記録する。

総合解説：工程管理では、計画と実績を比較し、差異の原因・影響を把握して必要な調整を行う。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0019

6-1 施工計画・工程管理 > 工程管理・施工体制 | 難易度：基礎

同じ道路区間で別事業者の工事が同時期に行われる。工程・施工体制として適切なものはどれか。

- ア．互いの工程は非公開とし、現場で鉢合わせした側が退避する。
- イ．交通誘導は各社が別々の合図で行う。
- ウ．作業範囲、交通規制、資機材搬入等の干渉を事前に調整し、相互の安全と工程を確保する。
- エ．隣接工事は自社の安全管理に影響しないので考慮しない。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。事前調整が必要である。
- イ：不適切。混乱防止の調整が必要である。
- ウ：適切。近接工事は相互干渉を事前調整する。
- エ：不適切。交通・作業場等で影響する。

総合解説：隣接・近接工事では、工程・交通・作業範囲・安全対策を施工者間で調整し、相互干渉による事故や遅延を防ぐ。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0020

6-1 施工計画・工程管理 > 工程管理・施工体制 | 難易度：標準

予定より工程が遅れたため、安全設備の設置と耐圧試験を省略して工期を守ろうとしている。最も適切な評価はどれか。

- ア．工期厳守が最優先なので合理的である。
- イ．耐圧試験だけ省略すれば安全管理は十分である。
- ウ．安全設備だけ省略し、品質試験をすれば問題ない。
- エ．不適切であり、必要な安全・品質管理を維持した上で工程を再調整すべきである。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。安全・品質を犠牲にしない。
- イ：不適切。品質確認を省略できない。
- ウ：不適切。第三者・作業員の安全も必要である。
- エ：適切。工期を理由に安全・品質管理を省略してはならない。

総合解説：工程管理は品質・安全管理と一体で行う。遅延時も必要な管理を省略せず、施工方法・人員・工程を見直す。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0021

6-1 施工計画・工程管理 > 工程管理・施工体制 | 難易度：基礎

施工体制における人員配置として適切なものはどれか。

- ア．技能・資格・経験と作業の危険性を踏まえ、必要な指導監督を含めて配置する。
- イ．人員数だけ満たせば技能・資格は確認しない。
- ウ．未熟練者を教育なしで単独作業に配置する。
- エ．資格を要する作業も現場責任者の口頭承認で無資格者に任せる。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。人数だけでなく資格・技能を考慮する。
- イ：不適切。資格・技能要件を確認する。
- ウ：不適切。指導・教育が必要である。
- エ：不適切。法定要件を守る。

総合解説：施工体制は人数だけでなく、法定資格、技能、経験、危険性を考慮して適切に組む。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0022

6-1 施工計画・工程管理 > 工程管理・施工体制 | 難易度：標準

工程変更により夜間作業へ切り替えることになった。施工体制上の対応として適切なものはどれか。

- ア．作業時間だけ変更し、他条件は昼間と同じとみなす。
- イ．照明・交通・騒音・人員・緊急連絡等の条件を再確認し、関係者へ変更内容を周知する。
- ウ．現場作業員には変更を知らせず管理者だけで把握する。
- エ．夜間なら交通量が減るため保安設備を省略する。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。夜間固有の危険を考慮する。
- イ：適切。工程変更に伴う新たな条件を再評価する。
- ウ：不適切。関係者へ周知する。
- エ：不適切。夜間は視認性を考慮した保安措置が必要である。

総合解説：工程変更は安全・品質・周辺環境に影響するため、施工体制と対策を再確認し、関係者へ確実に周知する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0023

6-1 施工計画・工程管理 > 現場管理・施工記録 | 難易度：標準

施工写真を記録する主な目的として最も適切なのはどれか。

- ア．現場の宣伝用写真だけを残すことである。
- イ．写真があれば検査・試験記録はすべて不要になる。
- ウ．完成後に見えなくなる施工状況や品質確認の結果を客観的に追跡できるようにする。
- エ．完成写真だけあれば埋設部の記録は不要である。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。施工管理記録として用いる。
- イ：不適切。写真と試験記録は役割が異なる。
- ウ：適切。不可視部の施工状態を後から確認できる。
- エ：不適切。埋設部こそ施工中記録が重要である。

総合解説：施工写真は、配管・接合・埋設・試験等の状態を客観的に示し、検査や維持管理の資料となる。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0024

6-1 施工計画・工程管理 > 現場管理・施工記録 | 難易度：応用

工事中に第三者の設備を損傷した。現場管理として適切なのはどれか。

- ア．復旧できれば事故記録は残さない。
- イ．原因調査は工期が遅れるため行わない。
- ウ．関係者への報告は完成検査時まで保留する。
- エ．直ちに安全確保と被害拡大防止措置を行い、事故状況と措置内容を水道事業者や関係機関へ必要に応じ報告する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。事故状況・対応を記録する。
- イ：不適切。再発防止のため原因整理が重要である。
- ウ：不適切。事故時は速やかな連絡が必要である。
- エ：適切。事故時は安全確保と迅速な報告が重要である。

総合解説：事故時は人命・安全を最優先し、被害拡大を防止した上で、関係者への報告と記録、原因整理を行う。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0025

6-1 施工計画・工程管理 > 現場管理・施工記録 | 難易度：標準

施工中に配管経路を変更した場合の記録として適切なものはどれか。

- ア．必要な承認・調整を行い、変更理由と実施工位置を図面・記録に反映する。
- イ．完成後に記憶で説明できるので図面修正しない。
- ウ．変更箇所だけを口頭で引き継ぎ、記録は削除する。
- エ．当初図面を実施工図としてそのまま保存する。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。実施工と記録を一致させる。
- イ：不適切。将来の維持管理に支障が出る。
- ウ：不適切。客観的記録を残す。
- エ：不適切。実施工との不一致を残さない。

総合解説：現場変更は、必要な手続とともに、実際の施工内容が追跡できるよう図面・施工記録へ反映する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0026

6-1 施工計画・工程管理 > 現場管理・施工記録 | 難易度：基礎

現場日報に記録する内容として有用性が高いものはどれか。

- ア．作業員の私的なSNS閲覧履歴。
- イ．作業内容、進捗、人員・機械、天候、主要な指示・異常・対応等。
- ウ．関係のない広告情報。
- エ．施工内容は書かず、天候だけを記録する。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。施工管理事項ではない。
- イ：適切。工程・安全・品質の実績を追跡できる。
- ウ：不適切。施工記録ではない。
- エ：不適切。進捗や異常等も記録する。

総合解説：日常の施工記録は、工程・品質・安全の実績を後から確認できるよう、作業・人員・機械・天候・指示・異常等を客観的に残す。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0027

6-1 施工計画・工程管理 > 現場管理・施工記録 | 難易度：標準

使用材料の記録を残す理由として最も適切なのはどれか。

- ア．材料メーカーの広告に使うためだけである。
- イ．材料記録は完成後すべて無価値になる。
- ウ．使用箇所と材料の種類・規格・受入確認等を追跡でき、品質問題時の確認に役立つ。
- エ．同じ色の材料なら規格記録は不要である。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。品質管理が主目的である。
- イ：不適切。維持管理や不具合調査にも役立つ。
- ウ：適切。材料の追跡性を確保できる。
- エ：不適切。外観だけで規格を判断できない。

総合解説：材料・機器の受入れと使用箇所を記録しておくことは、品質証明・不具合調査・維持管理の追跡性を高める。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0028

6-1 施工計画・工程管理 > 現場管理・施工記録 | 難易度：応用

水道事業者や発注者が施工状況を確認できるようにする現場管理として適切なのはどれか。

- ア．資料は完成後に一度だけ作成する。
- イ．確認を求められても作業員の記憶だけで説明する。
- ウ．写真は日付・箇所を特定できない状態で保存する。
- エ．必要な施工資料・写真・試験結果を工程に合わせて整理し、確認できる状態にしておく。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。工程ごとに整理する。
- イ：不適切。客観的資料を整備する。
- ウ：不適切。記録内容を特定できるよう整理する。
- エ：適切。施工状況を客観的に確認できるようにする。

総合解説：施工状況を客観的に確認できるよう、工程ごとに写真・試験記録・施工資料を整理することが重要である。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0029

6-1 施工計画・工程管理 > 現場管理・施工記録 | 難易度：基礎

掘削土、材料、機械器具の現場管理として適切なのはどれか。

- ア．交通や作業を妨げず事故原因とならないよう整理し、不要物は適切に搬出する。
- イ．通行しやすい歩道上へ一時的に集積する。
- ウ．機械器具は作業終了後も道路上に放置する。
- エ．不用土砂は掘削溝の縁にできるだけ高く積む。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。交通・第三者・作業員の安全を確保する。
- イ：不適切。歩行者通行を妨げる。
- ウ：不適切。交通障害や事故原因となる。
- エ：不適切。崩落・過荷重の原因となる。

総合解説：現場の整理整頓は、作業員だけでなく交通・周辺住民への危険や迷惑を防ぐ基本的な現場管理である。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0030

6-1 施工計画・工程管理 > 現場管理・施工記録 | 難易度：標準

工事完了時の現場管理として最も適切なのはどれか。

- ア．完成検査が終わるまで不用材料を交通路に置く。
- イ．機械・不用材料等を速やかに整理し、道路・周辺を安全な状態に戻して必要な完成記録を整える。
- ウ．仮設物は次の工事で使うため道路に残す。
- エ．路面清掃や片付けは発注者だけの責任なので施工者は行わない。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。交通の妨げを残さない。
- イ：適切。現場を安全に復旧し記録を完成させる。
- ウ：不適切。不要な仮設物は撤去する。
- エ：不適切。施工者は自らの工事現場を整理する。

総合解説：工事完了時は、片付け・清掃・仮設撤去・復旧状態の確認を行い、交通や周辺住民に支障を残さない。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0031

6-2 品質管理 > 材料・機器の受入れ・保管 | 難易度：基礎

給水管・継手を現場で受け入れる際の確認として最も適切なのはどれか。

- ア．梱包箱の色だけで適合と判断する。
- イ．数量さえ合えば規格確認は不要である。
- ウ．設計・仕様に合う種類・規格であるか、損傷・汚れ等がないかを確認する。
- エ．使用後に初めて損傷を確認する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。規格・型式等を確認する。
- イ：不適切。品質・適合性の確認が必要である。
- ウ：適切。施工前に規格・外観・数量等を確認する。
- エ：不適切。受入時に確認し不適合品を施工へ流さない。

総合解説：受入時には、材料の種類・規格・数量・外観・証明情報等を確認し、設計・施工条件に適合した材料だけを使用する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0032

6-2 品質管理 > 材料・機器の受入れ・保管 | 難易度：標準

給水管の保管方法として適切なのはどれか。

- ア．管端を開放したまま泥地に置く。
- イ．内部に雨水がたまって施工前に押し流せばよいので放置する。
- ウ．廃油容器の隣に無包装で保管する。
- エ．管内へ土砂・ごみ・水等が入らないよう端部を保護し、清潔な場所で保管する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。土砂等が侵入する。
- イ：不適切。保管段階から汚染を防ぐ。
- ウ：不適切。油等の汚染源から離す。
- エ：適切。飲料水に接する管内の汚染防止が必要である。

総合解説：給水材料は飲料水に接するため、保管中から異物・油・土砂等の侵入を防ぎ、衛生状態を保つ。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0033

6-2 品質管理 > 材料・機器の受入れ・保管 | 難易度：標準

樹脂管を長期間屋外保管する場合の管理として適切なのはどれか。

- ア．メーカーの取扱条件に従い、過度の日射・熱・変形・傷を避けるよう保管する。
- イ．材質にかかわらず高温の舗装面へ重量物を載せて保管する。
- ウ．管を鋭利な金属端部に接触させた状態で積み重ねる。
- エ．使用時に外観が見えれば保管条件は一切考慮しなくてよい。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。材料特性に応じた保管条件を守る。
- イ：不適切。変形・劣化の原因となり得る。
- ウ：不適切。傷の原因となる。
- エ：不適切。保管条件は品質確保に重要である。

総合解説：樹脂管は熱・日射・傷・変形等の影響を受けるため、製造者の取扱条件や材料特性に適した保管を行う。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0034

6-2 品質管理 > 材料・機器の受入れ・保管 | 難易度：応用

継手やシール材等の小物類の保管として適切なのはどれか。

- ア．異種継手を混ぜ、施工時に外観で選ぶ。
- イ．異物混入や紛失、材質劣化を防げるよう種類ごとに整理し、清潔な容器等で保管する。
- ウ．ゴム部品を油類に触れる状態で保管する。
- エ．シール材を地面へ直接置いて土砂が付着しても使用する。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。規格混同の原因となる。
- イ：適切。混同・汚染・劣化を防ぐ。
- ウ：不適切。材質劣化を招くおそれがある。
- エ：不適切。接合品質や衛生に影響する。

総合解説：小物・継手は、種類・規格を混同せず、異物や油等から保護し、使用時に適正品を確実に選べる状態で保管する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0035

6-2 品質管理 > 材料・機器の受入れ・保管 | 難易度：標準

水道メーターや弁類の受入れ・保管として適切なのはどれか。

- ア．精密機器でも投げ下ろして荷下ろし時間を短縮する。
- イ．接続口を泥で覆って内部を保護する。
- ウ．衝撃や落下を避け、型式・口径・流向等を確認して損傷のない状態で保管する。
- エ．流向表示は施工後に水が出れば確認不要である。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。衝撃を避ける。
- イ：不適切。泥等の侵入を防ぐ。
- ウ：適切。機器仕様と外観を確認して丁寧に扱う。
- エ：不適切。設置前に仕様・流向等を確認する。

総合解説：メーターや弁類は機能部を有するため、衝撃・汚染を避け、規格・口径・流向・外観を確認して適切に扱う。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0036

6-2 品質管理 > 材料・機器の受入れ・保管 | 難易度：基礎

構造・材質基準への適合が必要な給水用具の受入れで重要な確認はどれか。

- ア．メーカー名が有名なら証明情報は確認しない。
- イ．施工者が手書きで『適合』と記載すれば十分である。
- ウ．別口径・別型式の証明書を流用する。
- エ．製品の規格・認証・適合証明等が対象製品と一致しているか確認する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。客観的根拠を確認する。
- イ：不適切。適合証明等を確認する。
- ウ：不適切。対象製品との一致が必要である。
- エ：適切。実使用品と証明情報の対応を確認する。

総合解説：品質管理では、使用製品と適合証明・認証情報の対応を確認し、誤った型式・規格の使用を防ぐ。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0037

6-2 品質管理 > 材料・機器の受入れ・保管 | 難易度：標準

受入検査で管端に深い傷がある材料を発見した。適切な対応はどれか。

- ア．良品と区別して使用禁止を明確にし、交換・判定等の処置が決まるまで施工に使わない。
- イ．傷面を土側に向ければ使用してよい。
- ウ．他の材料と混ぜ、作業員の注意力に任せる。
- エ．埋設すれば見えなくなるので使用する。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。誤使用を防ぐよう隔離・識別する。
- イ：不適切。損傷品を無断使用しない。
- ウ：不適切。誤使用防止が必要である。
- エ：不適切。不具合原因となり得る。

総合解説：不適合品は誤使用を防ぐよう識別・隔離し、交換・補修可否等を正式に判断してから処置する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0038

6-2 品質管理 > 材料・機器の受入れ・保管 | 難易度：応用

シール材や接着剤など使用期限・保管条件の影響を受ける材料の管理として適切なのはどれか。

- ア．開封日や期限を記録せず、残量があれば無期限で使う。
- イ．製造者の使用期限・保管条件を確認し、期限切れや変質品を使用しない。
- ウ．直射日光や高温の影響は製品に関係なく無視できる。
- エ．異臭や固化があっても希釈して使用する。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。製品指定の期限等を守る。
- イ：適切。性能を確保できる状態で管理する。
- ウ：不適切。保管条件を守る。
- エ：不適切。変質品を使用しない。

総合解説：接着剤・シール材等は性能が保管条件に左右されるため、製造者の指定に従い期限・温度・開封後管理を行う。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0039

6-2 品質管理 > 材料・機器の受入れ・保管 | 難易度：基礎

管材を現場で積み重ねる場合の管理として適切なのはどれか。

- ア．道路の勾配方向に歯止めなしで丸管を積む。
- イ．通路にはみ出しても作業効率を優先する。
- ウ．転がり・荷崩れ・局部変形を防ぐ支持や歯止めを行い、安定した場所に保管する。
- エ．積載高さは安定性を考えず最大にする。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。転がりの危険がある。
- イ：不適切。通行安全を確保する。
- ウ：適切。材料損傷と人身事故を防ぐ。
- エ：不適切。荷崩れ防止を考える。

総合解説：材料保管では品質だけでなく、転倒・転がり・荷崩れによる人身事故や材料損傷を防ぐ配置が必要である。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0040

6-2 品質管理 > 材料・機器の受入れ・保管 | 難易度：標準

材料受入記録として有用な情報はどれか。

- ア．担当者の好きな材料順位だけ。
- イ．梱包材の色だけ。
- ウ．受入時の確認結果を記録せず、請求書だけ保存する。
- エ．品名・規格・数量・受入日・確認結果・必要な証明資料との対応。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。品質管理情報ではない。
- イ：不適切。製品特定に不十分である。
- ウ：不適切。品質確認の証跡を残す。
- エ：適切。材料の受入状況を追跡できる。

総合解説：受入記録は、どの材料をいつ受け入れ、規格・数量・品質をどう確認したかを追跡できるようにする。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0041

6-2 品質管理 > 接合・埋戻し等の施工品質 | 難易度：基礎

給水管の接合品質を確保する基本として最も適切なのはどれか。

- ア．管種・継手に適した工具と施工手順を用い、製造者や施工基準の条件を守る。
- イ．異なる管種でも同じ接合法を統一して使う。
- ウ．工具が合わなくても力を加えて接合する。
- エ．施工者の経験があれば清掃・寸法確認は省略できる。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。接合方式ごとの条件を守る。
- イ：不適切。管種ごとに接合法が異なる。
- ウ：不適切。適合工具を使う。
- エ：不適切。接合面や寸法確認が重要である。

総合解説：接合は管種・継手ごとに原理と施工条件が異なるため、適合する工具・手順・確認項目に従って行う。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0042

6-2 品質管理 > 接合・埋戻し等の施工品質 | 難易度：標準

管を切断した後の処理として適切なのはどれか。

- ア．ばりは接合強度を高めるので残す。
- イ．接合方式に応じて切断面を整え、ばり・切粉等を除去して接合部を清浄にする。
- ウ．切粉は通水時に流れるので管内へ入れたままにする。
- エ．切断面が斜めでも継手で隠れるので修正不要である。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。適切に除去する。
- イ：適切。接合不良や異物混入を防ぐ。
- ウ：不適切。異物を除去する。
- エ：不適切。適切な切断面を確保する。

総合解説：接合前の切断面処理・清掃は、接合不良や異物混入を防ぐ基本的な品質管理である。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0043

6-2 品質管理 > 接合・埋戻し等の施工品質 | 難易度：標準

硬質塩化ビニル管等の接着接合で適切な管理はどれか。

- ア．濡れや泥が付いた接合面でも接着剤を多く塗ればよい。
- イ．接着剤は材質に関係なく同じものを使う。
- ウ．接合面を清浄にし、指定の接着剤・塗布・挿入・保持・養生条件を守る。
- エ．挿入不足があっても外側を接着剤で盛れば同等になる。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。接合面を清浄にする。
- イ：不適切。適合品を用いる。
- ウ：適切。接合条件を守ることによって品質を確保する。
- エ：不適切。規定の挿入状態を確保する。

総合解説：接着接合は、接合面の清浄、適合接着剤、挿入・保持・養生など指定条件を守ることによって品質を確保する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0044

6-2 品質管理 > 接合・埋戻し等の施工品質 | 難易度：応用

ポリエチレン管の融着接合で重要な品質管理として適切なものはどれか。

- ア．接合面に油が付着している方が滑りがよく品質が上がる。
- イ．冷却前に大きな外力を加えて施工時間を短縮する。
- ウ．異なる仕様の管・継手でも見た目が合えば無条件で融着する。
- エ．接合面の清浄、芯合わせ、所定の加熱・圧力・冷却等の条件を確実に管理する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。汚染を除去する。
- イ：不適切。所定の冷却条件を守る。
- ウ：不適切。適合組合せを確認する。
- エ：適切。融着条件の管理が接合品質に直結する。

総合解説：融着接合は、表面状態、位置合わせ、加熱・圧力・時間・冷却など工程条件の管理が接合品質に直結する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0045

6-2 品質管理 > 接合・埋戻し等の施工品質 | 難易度：標準

給水管周囲の埋戻しで適切な考え方はどれか。

- ア．管を傷つけるおそれのある大きな石・異物を避け、道路管理者等の仕様に適合する材料を用いる。
- イ．鋭利な廃材を管周囲に集めて沈下を防ぐ。
- ウ．水道法が全国一律に埋戻し土の粒度を定めていると考える。
- エ．材料の状態に関係なく掘削土を必ず全量再使用する。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。管損傷防止と路体安定を考える。
- イ：不適切。管損傷の原因となる。
- ウ：不適切。道路管理者・水道事業者の基準等を確認する。
- エ：不適切。再使用可否は条件により判断する。

総合解説：埋戻しは、管への損傷防止と路面・地盤の安定を考慮し、当該道路管理者・水道事業者等の仕様に適合する材料と方法で行う。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0046

6-2 品質管理 > 接合・埋戻し等の施工品質 | 難易度：基礎

道路部の埋戻し・締固めとして適切なのはどれか。

- ア．一度に全深さを埋め、表面だけを締め固める。
- イ．所定の材料を適切な層厚で敷き均し、管や他埋設物を損傷しない方法で十分に締め固める。
- ウ．管直上でも大型機械を直接当て、損傷確認はしない。
- エ．沈下が起きたら後で補修すればよいので施工時の締固めは不要である。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。層ごとに締め固める。
- イ：適切。沈下防止と管保護を両立させる。
- ウ：不適切。管への影響を考慮する。
- エ：不適切。初期施工で品質を確保する。

総合解説：埋戻しは層ごとに適切に締め固め、管の損傷と将来の路面沈下を防ぐことが重要である。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0047

6-2 品質管理 > 接合・埋戻し等の施工品質 | 難易度：標準

配管作業中の管端処置として適切なものはどれか。

- ア．管端は換気のため常に開放する。
- イ．泥水が入っても最終通水で必ず完全除去できるので問題ない。
- ウ．作業を中断するときは管端を適切に塞ぎ、土砂・小動物・雨水等の侵入を防ぐ。
- エ．工具置場として管内を利用する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。異物侵入を防ぐ。
- イ：不適切。汚染を未然に防ぐ。
- ウ：適切。管内の衛生状態を保つ。
- エ：不適切。飲料水に接する管内を清潔にする。

総合解説：給水管内部の衛生を守るため、施工中も管端閉塞・清潔管理を行い、異物や汚染水の侵入を防ぐ。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0048

6-2 品質管理 > 接合・埋戻し等の施工品質 | 難易度：応用

露出配管の支持・固定として適切なものはどれか。

- ア．支持間隔は管種・口径に関係なく全国一律で1か所だけとする。
- イ．接合部へ管重量を集中させる。
- ウ．振動が大きい機器配管ほど固定を減らす。
- エ．管種・口径・荷重・温度変化等を考慮し、たわみや振動、接合部への過大荷重を防ぐ位置に支持する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。材料・口径等に応じる。
- イ：不適切。過大荷重を避ける。
- ウ：不適切。振動対策を考える。
- エ：適切。管と接合部への過大な力を防ぐ。

総合解説：支持・固定は、管の自重や水重、振動、熱伸縮等による変形・接合部負担を抑えるよう計画する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0049

6-2 品質管理 > 接合・埋戻し等の施工品質 | 難易度：基礎

新設配管を既設給水装置へ接続する直前の確認として適切なのはどれか。

- ア．管内に切粉・土砂・異物がないことを確認し、必要な洗浄等を行ってから接続する。
- イ．管内を確認せず接続し、水道メーターが異物を捕捉すると期待する。
- ウ．小さな切粉は消毒剤で溶けるため残してよい。
- エ．異物確認は外面だけでよい。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。水質と器具保護のため異物を除去する。
- イ：不適切。異物を事前に除去する。
- ウ：不適切。切粉は物理的異物である。
- エ：不適切。管内を確認する。

総合解説：接続前に管内の異物・汚れを除去し、清潔な状態を確保することは水質・器具保護の基本である。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0050

6-2 品質管理 > 接合・埋戻し等の施工品質 | 難易度：標準

埋戻し前の品質管理として最も適切なのはどれか。

- ア．埋戻し後に見えなくなるため確認する意味はない。
- イ．配管位置・接合状態・防護・必要な試験等を確認し、写真や記録を残してから埋め戻す。
- ウ．不適合部は埋戻しで固定されるのでそのままにする。
- エ．施工写真だけ撮れば接合状態の実確認は不要である。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。むしろ埋設前確認が重要である。
- イ：適切。埋設後に見えない部分を事前確認する。
- ウ：不適切。埋設前に是正する。
- エ：不適切。実確認と記録の両方が必要である。

総合解説：埋設後に確認できない部分は、次工程へ進む前に品質を確認し、必要な記録を残す。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0051

6-2 品質管理 > 検査・試験・不適合是正 | 難易度：基礎

給水装置の耐圧試験を行う主な目的はどれか。

- ア．水道料金を決定する。
- イ．管の色を統一する。
- ウ．施工した配管・接合部等に漏れや耐圧上の異常がないか確認する。
- エ．施工写真の枚数を確認する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。料金決定の試験ではない。
- イ：不適切。外観色とは無関係である。
- ウ：適切。施工後の配管系の健全性を確認する。
- エ：不適切。耐圧性能を確認する試験である。

総合解説：耐圧試験は、給水装置が所定の圧力条件で漏れ等の異常を生じないことを確認する品質試験である。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0052

6-2 品質管理 > 検査・試験・不適合是正 | 難易度：標準

耐圧試験の試験圧力・保持時間を決める考え方として適切なのはどれか。

- ア．全国どの工事でも施工者が任意に同一値を決める。
- イ．高いほど安全なので部材の許容を無視して最大圧力をかける。
- ウ．試験条件は記録せず、合格・不合格だけ残す。
- エ．当該水道事業者の施工基準・設計条件・使用材料の仕様等に従って設定する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。適用基準を確認する。
- イ：不適切。部材仕様を超えてはならない。
- ウ：不適切。条件と結果を記録する。
- エ：適切。対象工事に適用される基準で決める。

総合解説：耐圧試験条件は、対象工事・材料・水道事業者の基準に応じて確認し、圧力・時間・結果を記録する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0053

6-2 品質管理 > 検査・試験・不適合是正 | 難易度：標準

配水管の穿孔等を伴う工事後に通水し、簡易な水質確認を行う際の基本的な確認項目として適切なのはどれか。

- ア．残留塩素、におい、濁り、味、色。
- イ．トリハロメタンだけ。
- ウ．水温と水圧だけ。
- エ．硬度と蒸発残留物だけ。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。令和7年度公式問題で扱われた施工後確認項目の組合せである。
- イ：不適切。施工直後の基本確認項目の組合せではない。
- ウ：不適切。水質の基本確認にならない。
- エ：不適切。公式出題で示される組合せではない。

総合解説：公式過去問題では、穿孔後の水質確認として残留塩素、におい、濁り、味、色の組合せが扱われている。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0054

6-2 品質管理 > 検査・試験・不適合是正 | 難易度：応用

圧力計等を用いた検査で適切な品質管理はどれか。

- ア．指針がずれていても毎回同じ値なら使用する。
- イ．測定器が正常に機能し、対象範囲を適切に測定できることを確認して使用する。
- ウ．破損した計器は平均値を推定して使う。
- エ．測定範囲が不足していても目盛を外挿する。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。正常な測定器を用いる。
- イ：適切。試験結果の信頼性には測定器管理が必要である。
- ウ：不適切。信頼できない。
- エ：不適切。適切な測定範囲の機器を用いる。

総合解説：検査結果の信頼性は測定器の状態に左右されるため、使用前に機能・範囲・必要な校正等を確認する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0055

6-2 品質管理 > 検査・試験・不適合是正 | 難易度：標準

耐圧試験で圧力低下が確認された。適切な対応はどれか。

- ア．規定値を書き換えて合格とする。
- イ．埋め戻せば漏れが止まると考えてそのまま進む。
- ウ．漏れ・接合不良等の原因を調査し、是正してから再試験で適合を確認する。
- エ．試験記録を破棄し、別日に合格記録だけ作る。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。判定基準を変更してはならない。
- イ：不適切。原因を除去する。
- ウ：適切。不適合原因を除去し再確認する。
- エ：不適切。是正履歴を残す。

総合解説：不適合は隠さず原因を確認し、補修・交換等の是正後に再検査して適合を確認する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0056

6-2 品質管理 > 検査・試験・不適合是正 | 難易度：基礎

不適合是正の記録として有用な内容はどれか。

- ア．『直した』の一語だけ。
- イ．担当者の私的な感想だけ。
- ウ．不適合があった事実を削除した完成記録。
- エ．不適合の内容、原因、処置、再検査結果、関係する箇所・材料等。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。内容を客観的に残す。
- イ：不適切。技術的事実を記録する。
- ウ：不適切。是正履歴を残す。
- エ：適切。発見から再確認まで追跡できる。

総合解説：是正管理は、不適合の発見から原因、処置、再確認までを追跡できるよう記録する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0057

6-2 品質管理 > 検査・試験・不適合是正 | 難易度：標準

新設配管の水質確認前の対応として適切なものはどれか。

- ア．管内を必要に応じて十分に通水・洗浄し、異物や停滞水の影響を除いてから確認する。
- イ．配管工事中に土砂が入っても洗浄せず採水する。
- ウ．消毒薬を過量に入れば洗浄は不要である。
- エ．採水は接着剤施工直後など、養生条件を無視して行う。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。施工由来の汚れを除去してから確認する。
- イ：不適切。洗浄が必要である。
- ウ：不適切。物理的異物は除去する。
- エ：不適切。所定の養生条件を守る。

総合解説：施工後の水質確認は、配管内部を清潔な状態に整えた上で実施し、施工由来の異常がないことを確認する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0058

6-2 品質管理 > 検査・試験・不適合是正 | 難易度：応用

水道事業者の確認対象となる接合部を、検査前に埋め戻すよう求められた。最も適切な対応はどれか。

- ア．工程を優先し、写真も撮らず埋め戻す。
- イ．必要な確認時期を守り、検査・記録が完了してから隠蔽する。
- ウ．埋め戻し後に推定で合格とする。
- エ．試験結果が良ければ位置・防護等の確認は不要である。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。必要な確認を省略しない。
- イ：適切。確認不能になる前に検査する。
- ウ：不適切。実確認が必要である。
- エ：不適切。複数の品質項目を確認する。

総合解説：隠蔽後に確認困難となる部分は、必要な検査・写真・記録を施工中に完了させる。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0059

6-2 品質管理 > 検査・試験・不適合是正 | 難易度：基礎

給水装置工事の検査可否を判断する際の考え方として最も適切なものはどれか。

- ア．現場責任者の感覚だけで判断する。
- イ．以前の別水道事業者の基準を無条件で流用する。
- ウ．法令・構造材質基準・設計図書・水道事業者の施工基準等、対象工事に適用される基準に照らす。
- エ．需要者が納得すれば法定基準不適合でも合格とする。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。客観的基準が必要である。
- イ：不適切。対象水道事業者の基準を確認する。
- ウ：適切。適用基準を明確にして判定する。
- エ：不適切。法定要件は合意で免除できない。

総合解説：検査は対象工事に適用される法令・設計・施工基準を明確にして判定する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0060

6-2 品質管理 > 検査・試験・不適合是正 | 難易度：標準

完成時の検査記録として適切なものはどれか。

- ア．合格の印だけで、何を検査したか残さない。
- イ．測定値は記録せず、記憶に頼る。
- ウ．不適合があった場合は記録を削除してから再試験する。
- エ．試験条件、測定値・確認結果、不適合と是正の有無、確認者等を追跡できる形で残す。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。検査内容を特定できない。
- イ：不適切。客観的記録を残す。
- ウ：不適切。是正履歴も記録する。
- エ：適切。後から検査内容を再確認できる。

総合解説：検査結果は、後から何をどの条件で確認したかが分かるように記録し、品質の説明責任を確保する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0061

6-3 安全管理 > 掘削・土止め・開口部 | 難易度：基礎

道路を掘削する前の安全管理として最も適切なものはどれか。

- ア．図面・現地情報・管理者への照会等で地下埋設物を調査し、必要に応じ立会いや試掘で位置を確認する。
- イ．埋設物は深い位置にあると仮定して機械掘削を開始する。
- ウ．配水管の位置だけ分かれば他埋設物は確認しない。
- エ．舗装面に標示がなければ埋設物はないと判断する。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。埋設物位置を事前把握して損傷事故を防ぐ。
- イ：不適切。事前確認が必要である。
- ウ：不適切。ガス・電気・通信等も確認する。
- エ：不適切。複数資料と現地確認を組み合わせる。

総合解説：掘削前には地下埋設物の種類・位置を把握し、必要に応じ管理者と協議・立会いして損傷事故を防ぐ。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0062

6-3 安全管理 > 掘削・土止め・開口部 | 難易度：標準

掘削中に管理者不明のケーブル状物を発見した。適切な対応はどれか。

- ア．使われていないと推定し、切断して掘削を続ける。
- イ．周囲を安全に保ち、関係機関等へ照会して用途・管理者を確認するまで安易に移動・切断しない。
- ウ．絶縁手袋を着ければ用途不明でも自由に移動できる。
- エ．写真だけ撮って埋め戻し、存在を報告しない。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。重大事故につながる。
- イ：適切。不明埋設物は推測で処理しない。
- ウ：不適切。管理者確認が必要である。
- エ：不適切。調査・連絡が必要である。

総合解説：不明埋設物は用途を推測して処理せず、関係機関に問い合わせるなど十分な調査後に対応する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0063

6-3 安全管理 > 掘削・土止め・開口部 | 難易度：標準

労働安全衛生法施行令上、地山の掘削作業主任者を選任すべき作業として該当するものはどれか。

- ア．掘削面の高さが50cm以上のすべての手掘り作業。
- イ．道路上の掘削は深さにかかわらず一律対象外である。
- ウ．掘削面の高さが2m以上となる地山の掘削作業（法令上の除外を除く）。
- エ．掘削面の高さが1m以上なら必ず同作業主任者が必要である。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。基準は2m以上である。
- イ：不適切。道路が否かだけで一律除外されない。
- ウ：適切。施行令第6条の対象である。
- エ：不適切。基準は2m以上である。

総合解説：労働安全衛生法施行令第6条では、掘削面の高さが2m以上となる地山の掘削作業について作業主任者の選任対象としている。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0064

6-3 安全管理 > 掘削・土止め・開口部 | 難易度：応用

土止め支保工に関して作業主任者の選任対象となる作業はどれか。

- ア．完成した支保工の近くを通行するだけの作業。
- イ．掘削予定地の測量だけ。
- ウ．道路標識の設置だけ。
- エ．土止め支保工の切りばり又は腹起こしの取付け又は取り外し作業。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。取付け・取外し作業が対象である。
- イ：不適切。別作業である。
- ウ：不適切。土止め支保工作業ではない。
- エ：適切。施行令第6条の対象である。

総合解説：労働安全衛生法施行令第6条は、土止め支保工の切りばり・腹起こしの取付けまたは取外し作業を作業主任者選任対象としている。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0065

6-3 安全管理 > 掘削・土止め・開口部 | 難易度：標準

掘削作業中の地山管理として適切なものはどれか。

- ア．亀裂・浮石、湧水、含水状態等の変化を点検し、崩壊のおそれがあれば作業を止め必要な措置をとる。
- イ．一度掘削前に確認すれば、降雨後も再点検は不要である。
- ウ．小さな亀裂は深さに関係なく必ず無視する。
- エ．湧水は地山を安定させるので排水を考えない。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。地山の変化を継続確認する。
- イ：不適切。降雨等で地山状態は変化する。
- ウ：不適切。崩壊兆候として評価する。
- エ：不適切。湧水は崩壊要因となり得る。

総合解説：掘削中は地山状態が変化するため、亀裂・湧水等を継続的に観察し、異常時には退避・支保・排水等の対策を行う。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0066

6-3 安全管理 > 掘削・土止め・開口部 | 難易度：基礎

掘削溝の崩壊防止として適切な考え方はどれか。

- ア．深くなるほど土圧は小さくなるので支保は不要になる。
- イ．土質、掘削深さ、湧水、周辺荷重等を考慮し、必要な法面勾配・土止め支保工等を計画する。
- ウ．周辺交通の振動は地山安定に影響しない。
- エ．地山の状態に関係なく垂直掘削を原則とする。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。一般に深さや条件に応じ土圧等を考慮する。
- イ：適切。地山条件を踏まえて崩壊防止方法を選ぶ。
- ウ：不適切。振動や上載荷重も考慮する。
- エ：不適切。条件に応じ安全な掘削形状・支保を選ぶ。

総合解説：掘削の崩壊防止は、地山・水・深さ・荷重等に基づき、適切な勾配や土留めを選定して行う。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0067

6-3 安全管理 > 掘削・土止め・開口部 | 難易度：標準

掘削土を一時集積する位置として適切なのはどれか。

- ア．掘削縁ぎりぎりに高く積み、落下防止は行わない。
- イ．歩行者通路へ広げて保管する。
- ウ．掘削縁への過大な上載荷重や崩落、交通障害を生じないよう十分離して安定した場所に置く。
- エ．支保工の変形があっても掘削土を追加して押さえる。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。崩落・上載荷重の原因となる。
- イ：不適切。通行を妨げる。
- ウ：適切。掘削面の安定と交通安全を守る。
- エ：不適切。異常時は作業を止める。

総合解説：掘削土や資材は、掘削面の安定と交通・作業動線を損なわない位置に整理して置く。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0068

6-3 安全管理 > 掘削・土止め・開口部 | 難易度：応用

作業員が掘削溝へ出入りする方法として適切なのはどれか。

- ア．掘削壁の凹凸を足場として昇降する。
- イ．バックホウのバケットに乗って出入りする。
- ウ．掘削が短時間なら昇降設備は不要で、飛び降りる。
- エ．安全に昇降できるはしご・階段等の設備を設け、滑り・転落を防ぐ。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。転落・崩壊の危険がある。
- イ：不適切。用途外使用で危険である。
- ウ：不適切。安全な昇降設備が必要である。
- エ：適切。安全な出入口を確保する。

総合解説：掘削部では、緊急時の退避も考慮して安全な昇降設備と通路を確保する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0069

6-3 安全管理 > 掘削・土止め・開口部 | 難易度：基礎

道路上に掘削開口部を残して一時離れる場合の措置として適切なのはどれか。

- ア．強固な柵・覆い等で転落・進入を防ぎ、夜間も視認できる保安措置を行う。
- イ．カラーコーン1個を離れた場所に置けば十分である。
- ウ．歩行者が少なければ開口部を無防護でよい。
- エ．覆いは固定せず、風や車両で動いても構わない。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。第三者の転落・進入を防ぐ。
- イ：不適切。開口部を確実に防護する。
- ウ：不適切。第三者接近の可能性を考える。
- エ：不適切。ずれ・移動を防ぐ。

総合解説：開口部は作業員・第三者の転落を防ぐため、柵・覆い・照明等を確実に設置し、安全な通路を確保する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0070

6-3 安全管理 > 掘削・土止め・開口部 | 難易度：標準

降雨により掘削溝へ水が流入している。適切な対応はどれか。

- ア．水が多いほど土が締まると考えて作業を継続する。
- イ．地山の安定と作業安全を確認し、必要な排水・支保・作業中止等の措置をとる。
- ウ．電気機器を水中に置いたまま使用する。
- エ．湧水で地山が崩れ始めても工程優先で配管する。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。崩壊等の危険がある。
- イ：適切。水の影響を評価し安全を確保する。
- ウ：不適切。感電等の危険がある。
- エ：不適切。安全確保を優先する。

総合解説：雨水・湧水は地山崩壊や感電、足元不良の原因となるため、排水と地山点検を行い、危険時は作業を中止する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0071

6-3 安全管理 > 掘削・土止め・開口部 | 難易度：基礎

土止め支保工の切りばりに著しいたわみを発見した。適切な対応はどれか。

- ア．たわみを足で蹴って戻し、作業を続ける。
- イ．異常は完成後に写真で報告すればよい。
- ウ．作業員を危険区域から退避させ、支保工の状態を確認して補強・是正後に作業を再開する。
- エ．切りばりを勝手に取り外して空間を広げる。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。専門的な確認・是正が必要である。
- イ：不適切。直ちに安全措置をとる。
- ウ：適切。崩壊の前兆として直ちに対応する。
- エ：不適切。構造安定を損なう。

総合解説：支保工の変形・緩み等は崩壊の前兆となり得る。異常を発見したら退避・点検・補強等を優先する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0072

6-3 安全管理 > 掘削・土止め・開口部 | 難易度：標準

バックホウで掘削中の作業員配置として適切なのはどれか。

- ア．バケット直下で作業員が深さを測る。
- イ．運転者から見えない死角に合図者なしで作業員を配置する。
- ウ．作業員が多いほど安全なので機械周囲へ集める。
- エ．機械の旋回・バケット作業範囲など接触危険区域へ作業員を立ち入らせず、必要に応じ誘導者を配置する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。危険範囲へ立ち入らせない。
- イ：不適切。死角対策が必要である。
- ウ：不適切。必要な者以外を危険範囲へ入れない。
- エ：適切。接触・挟まれ事故を防ぐ。

総合解説：車両系建設機械の作業では、運転機械との接触・挟まれを防ぐため危険範囲への立入を制限し、必要に応じ誘導を行う。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0073

6-3 安全管理 > 建設機械・交通・第三者災害防止 | 難易度：標準

車両系建設機械を使用する前の安全管理として適切なものはどれか。

- ア．地形・地盤、機械の種類・能力、運行経路、作業方法等を踏まえて作業計画を定める。
- イ．運転者が現場で自由に経路を決めれば計画は不要である。
- ウ．機械の能力を超える作業でも時間短縮のため実施する。
- エ．作業員の立入区域は計画せず、各自の判断に任せる。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。現場条件に応じた作業計画が必要である。
- イ：不適切。事前計画が必要である。
- ウ：不適切。能力・用途の範囲で使用する。
- エ：不適切。危険区域を計画する。

総合解説：建設機械作業では、現場条件と機械能力を踏まえ、運行経路・作業方法・立入管理等を事前に計画する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0074

6-3 安全管理 > 建設機械・交通・第三者災害防止 | 難易度：応用

道路上でバックホウと作業員が近接する場合の措置として適切なものはどれか。

- ア．作業員が機械の死角から声だけで近づく。
- イ．危険区域への立入を禁止し、必要なときは誘導者を定め一定の合図で運転者と連携する。
- ウ．運転者が熟練者なら立入禁止は不要である。
- エ．誘導者と運転者がそれぞれ別の合図を使う。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。死角対策が必要である。
- イ：適切。立入管理と統一合図が重要である。
- ウ：不適切。熟練度に関係なく対策する。
- エ：不適切。合図を統一する。

総合解説：車両系建設機械による接触防止では、危険範囲の立入管理と、必要に応じた誘導者・統一合図が重要である。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0075

6-3 安全管理 > 建設機械・交通・第三者災害防止 | 難易度：標準

道路工事で標識・保安灯・セーフティコーン等を設置する主な目的はどれか。

- ア．工事会社の広告面積を確保する。
- イ．作業員の休憩場所を示す。
- ウ．道路利用者に工事箇所を予告・誘導し、作業場への進入や車両・歩行者との接触を防ぐ。
- エ．道路を必要以上に閉鎖する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。交通安全が目的である。
- イ：不適切。主目的ではない。
- ウ：適切。公衆災害防止のための交通保安措置である。
- エ：不適切。必要な規制を行う。

総合解説：交通保安施設は、工事箇所の視認性を高め、車両・歩行者を安全に誘導して公衆災害を防止する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0076

6-3 安全管理 > 建設機械・交通・第三者災害防止 | 難易度：基礎

建設工事公衆災害に該当するものとして最も適切なのはどれか。

- ア．作業員が自分の工具につまずいて軽傷を負っただけの事故。
- イ．機械オペレーターが掘削溝へ転落し本人だけが負傷した事故。
- ウ．作業員同士が現場内で接触し負傷した事故。
- エ．工事中建設機械が架空線に接触し、断線して周辺地域が停電した。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。主として労働災害である。
- イ：不適切。工事関係者の労働災害である。
- ウ：不適切。工事関係者相互の事故である。
- エ：適切。第三者の財産・社会機能への危害に該当し得る。

総合解説：公衆災害は、工事関係者以外の第三者の生命・身体・財産への危害や迷惑を対象とする。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0077

6-3 安全管理 > 建設機械・交通・第三者災害防止 | 難易度：標準

建設工事公衆災害防止対策要綱に基づく道路工事の予告標識について、適切なものはどれか。

- ア．工事箇所の前方50mから500mの間の視認しやすい場所に設置する。
- イ．工事箇所の真上だけに設置すればよい。
- ウ．工事箇所の後方1km以上だけに設置する。
- エ．夜間は標識を撤去し、昼間だけ表示する。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。要綱で示される標準的な位置である。
- イ：不適切。事前予告にならない。
- ウ：不適切。接近交通への予告が必要である。
- エ：不適切。夜間も必要な視認性を確保する。

総合解説：要綱では、道路上または道路に接して工事を施工する場合、工事を予告する標識等を前方50～500mの視認しやすい位置に設置する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0078

6-3 安全管理 > 建設機械・交通・第三者災害防止 | 難易度：応用

道路掘削箇所を埋め戻した後、やむを得ず周囲の路面との段差が生じた場合の標準的な措置として適切なものはどれか。

- ア．段差が10cm未満なら何もしない。
- イ．5%以内の勾配ですり付け、困難な場合は標示板等で通行車両に予知させる。
- ウ．段差部を急勾配にして車両を減速させる。
- エ．夜間だけ段差を残し昼間に補修する。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。段差は通行危険となる。
- イ：適切。要綱に示される交通安全措置である。
- ウ：不適切。安全なすり付けが必要である。
- エ：不適切。常時安全を確保する。

総合解説：公衆災害防止対策要綱では、やむを得ない段差は5%以内の勾配ですり付けることを標準とし、困難な場合は標示板等で予知させる。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0079

6-3 安全管理 > 建設機械・交通・第三者災害防止 | 難易度：基礎

作業場出入口で工事車両が頻繁に一般交通と交錯する。適切な交通対策はどれか。

- ア．車両運転者がクラクションを鳴らせば誘導は不要である。
- イ．歩行者には車両を避けてもらい、歩行者通路は確保しない。
- ウ．道路管理者・警察等の指示や現場条件に応じ、必要な交通誘導員と標識・保安設備を配置する。
- エ．交通量が多いほど作業場出入口の標示を減らす。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。安全な誘導が必要である。
- イ：不適切。歩行者安全を確保する。
- ウ：適切。一般交通との接触を防止する。
- エ：不適切。交通量に応じて対策を強化する。

総合解説：工事車両の出入りは、一般交通・歩行者との接触リスクが高いため、誘導員・標識等で安全に管理する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0080

6-3 安全管理 > 建設機械・交通・第三者災害防止 | 難易度：標準

隣接する別工事でも片側交互通行を行う予定である。適切な対応はどれか。

- ア．各工事が独立に異なる合図で誘導する。
- イ．近接工事の存在は自社工程に関係ないので無視する。
- ウ．一方の工事だけ標識を設置し、もう一方は省略する。
- エ．施工者間で規制区間・誘導方法・施工時間を調整し、交通の安全と円滑を確保する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。混乱を招く。
- イ：不適切。交通規制が干渉する。
- ウ：不適切。各作業場に必要な対策を行う。
- エ：適切。誘導の干渉を防ぐ。

総合解説：近接する工事では、交通誘導が互いに干渉しないよう施工者間で十分に調整する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0081

6-3 安全管理 > 建設機械・交通・第三者災害防止 | 難易度：基礎

歩道を一部占用して工事する場合の第三者災害防止として適切なものはどれか。

- ア．歩行者が車道へ不用意に出ないように、安全で分かりやすい仮通路・誘導・防護を確保する。
- イ．歩道を閉鎖するだけで迂回案内を設けない。
- ウ．視覚障害者等への配慮は工事と無関係として扱う。
- エ．資材を仮通路に置き、歩行者に避けてもらう。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。歩行者の安全な通行を確保する。
- イ：不適切。安全な代替動線を示す。
- ウ：不適切。通行者の安全を考慮する。
- エ：不適切。通路を確保する。

総合解説：歩行者対策では、仮通路の幅・段差・視認性・誘導などを考慮し、公衆が安全に通行できる状態を維持する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0082

6-3 安全管理 > 建設機械・交通・第三者災害防止 | 難易度：標準

クレーン・バックホウ等を架空線近くで使用する場合の安全対策として適切なものはどれか。

- ア．絶縁されているように見えれば接触してもよい。
- イ．架空線の位置・高さを事前確認し、必要な離隔・監視・防護等を管理者と調整して接触を防ぐ。
- ウ．運転者が架空線を目視できない方が作業に集中できる。
- エ．接触事故が起きてから管理者へ連絡する計画でよい。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。外観だけで安全判断しない。
- イ：適切。感電・停電等の事故を予防する。
- ウ：不適切。死角対策が必要である。
- エ：不適切。事前に危険を把握する。

総合解説：架空線損傷は感電だけでなく周辺停電等の公衆災害につながるため、事前確認と管理者協議、離隔・誘導等が重要である。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0083

6-3 安全管理 > 保護具・作業環境・事故防止 | 難易度：標準

給水装置工事の現場で使用する保護具について、最も適切なのはどれか。

- ア．保護具を着用すれば、立入禁止や機械の防護など他の安全対策は不要となる。
- イ．作業内容にかかわらず、同じ保護具一式を着用すれば十分である。
- ウ．飛来・落下、切創、騒音、粉じん、墜落など作業ごとの危険要因を把握し、それに適した保護具を正しく着用する。
- エ．短時間作業であれば、危険作業でも保護具を省略してよい。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。保護具は重要だが、設備・作業方法・立入管理等の安全対策を代替するものではない。
- イ：不適切。危険要因に応じて必要な保護具は異なる。
- ウ：適切。保護具は作業に存在する危険・有害要因に応じて選定し、正しい方法で使用する事が重要である。
- エ：不適切。作業時間の短さだけで保護具の必要性はなくなる。

総合解説：安全管理では、まず危険源を把握し、設備・作業方法等による対策を講じたうえで、残る危険に応じた保護具を選定・使用する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0084

6-3 安全管理 > 保護具・作業環境・事故防止 | 難易度：応用

給水装置工事現場で仮設の電気機器を使用する場合の安全対策として適切なのはどれか。

- ア．給水装置工事主任技術者であれば、電気工事に必要な資格の有無にかかわらず、すべての電気配線工事を行える。
- イ．機器の外装が乾いていれば、漏電遮断器等の保護措置は検討しなくてよい。
- ウ．高電圧設備付近でも、作業者が注意すれば接触防止の囲い等は不要である。
- エ．漏電・感電のおそれを踏まえ、適切な保護装置や囲い等を設け、配線・機器を点検して安全に使用する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。給水装置工事主任技術者の資格は、電気工事に関する資格要件を代替しない。
- イ：不適切。使用環境や設備条件に応じた感電・漏電防止措置が必要である。
- ウ：不適切。接触のおそれがある場合は、必要な防護・隔離等を行う。
- エ：適切。建設工事では仮設電気設備について感電防止・漏電防止等の措置と点検が必要である。

総合解説：仮設電気設備は、感電・漏電・接触等の危険を想定して設備面と作業面の対策を講じる。給水装置工事主任技術者資格は電気工事に関する資格を兼ねるものではない。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0085

6-3 安全管理 > 保護具・作業環境・事故防止 | 難易度：標準

労働安全衛生規則に基づく熱中症対策の対象となる作業の目安として、適切なのはどれか。

- ア．WBGT28 以上または気温31 以上の環境で、連続1時間以上または1日4時間を超えて行うことが見込まれる作業。
イ．気温20 以上の環境で10分以上行うすべての作業。
ウ．WBGT35 以上の屋内作業だけが対象で、屋外作業は対象外である。
エ．気温31 以上であっても、1日8時間を超えなければ対策対象にはならない。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。2025年6月施行の改正では、この条件の作業について熱中症のおそれのある者を早期に把握・対処する体制等が求められる。
イ：不適切。法令上の対象作業の目安とは異なる。
ウ：不適切。屋内外を問わず、所定の暑熱条件と作業時間が基準となる。
エ：不適切。連続1時間以上または1日4時間を超える見込みが基準となる。

総合解説：現場の熱中症対策では、WBGT28 以上または気温31 以上、かつ一定時間以上の作業が見込まれる場合に、報告体制や対応手順を整備・周知する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0086

6-3 安全管理 > 保護具・作業環境・事故防止 | 難易度：基礎

作業中の作業者に熱中症が疑われる症状が現れた場合の対応として、最も適切なのはどれか。

- ア．本人が休みたいと言うまで作業を続けさせ、終業後にまとめて報告する。
イ．定めた連絡体制により速やかに報告し、作業から離脱させ、身体冷却や必要に応じた医療機関への搬送等を行い、一人にしない。
ウ．水分を渡した後は、症状の程度にかかわらず一人で休ませてよい。
エ．症状が軽そうなら、体を冷やすことは避けて通常作業へ戻す。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。症状を認めたら早期に対応する必要がある。
イ：適切。熱中症のおそれを把握した場合は、重篤化を防ぐため迅速な報告・作業離脱・冷却・受診等の対応が必要である。
ウ：不適切。状態悪化の可能性があるため、必要な観察・連絡・搬送等を行い一人にしない。
エ：不適切。重篤化防止のため必要な身体冷却や作業離脱等を行う。

総合解説：熱中症は重症化することがあるため、現場で定めた手順に沿って早期に把握し、作業離脱、身体冷却、医療機関への搬送等を迅速に実施する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0087

6-3 安全管理 > 保護具・作業環境・事故防止 | 難易度：標準

住宅地に近接した給水装置工事で、騒音・振動による周辺への影響を低減する方法として適切なのはどれか。

- ア．騒音は作業員だけの問題なので、周辺住民への影響は考慮しない。
- イ．工期短縮のためであれば、地域のルールや周辺環境を無視して夜間作業を行う。
- ウ．低騒音型機械の使用や作業時間帯への配慮など、現場条件に応じて騒音・振動を抑える措置を講じる。
- エ．機械の整備状態は騒音に影響しないため、点検は不要である。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。建設工事では第三者への迷惑・公衆災害防止も重要である。
- イ：不適切。必要な手続・周知・周辺環境への配慮が必要である。
- ウ：適切。公衆災害・周辺環境への配慮として、機械選定や作業方法・時間帯等を工夫する。
- エ：不適切。適切な機械管理も騒音・振動低減に関係する。

総合解説：住宅地等では、工事の必要性だけでなく、低騒音型機械、作業時間、機械整備、周知等を通じて第三者への影響を抑える。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0088

6-3 安全管理 > 保護具・作業環境・事故防止 | 難易度：応用

施工現場の整理整頓について、最も適切なのはどれか。

- ア．使用中の工具は通路上に置いた方が取りやすいため、通行スペースの確保は不要である。
- イ．掘削土は道路上であればどこに積んでもよく、第三者の通行は考慮しない。
- ウ．整理整頓は完成検査の直前だけ行えば十分である。
- エ．工具・材料・掘削土等を適切に整理し、作業通路や避難・搬出経路を安全に確保する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。通路上の工具・資材は転倒や通行障害の原因になる。
- イ：不適切。交通・歩行者・作業の安全を考慮して適切に管理する。
- ウ：不適切。施工中を通じて継続的に行う必要がある。
- エ：適切。整理整頓は転倒・接触・通行阻害等を防ぎ、安全で効率的な作業環境を確保する基本である。

総合解説：現場の整理整頓は日常的な安全管理であり、資材・工具・掘削土を適切に配置して安全通路を確保する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0089

6-3 安全管理 > 保護具・作業環境・事故防止 | 難易度：基礎

夏季の道路掘削作業中、作業者がめまいと吐き気を訴えた。現場の対応として最も適切なのはどれか。

- ア．直ちに作業から離脱させて涼しい場所で身体を冷却し、定めた連絡手順に従って状態を確認し、必要に応じて医療機関へ搬送する。
- イ．本人が歩けるので、そのまま30分だけ作業を継続させる。
- ウ．日陰へ移動させた後は一人にし、他の作業者は通常作業に戻る。
- エ．水分摂取を禁止し、体温が自然に下がるのを待つ。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。熱中症が疑われる症状がある場合、作業を継続させず、迅速な冷却・観察・医療対応を行う。
- イ：不適切。症状がある時点で作業から離脱させる。
- ウ：不適切。重篤化する可能性があるため、一人にせず適切に見守り・対応する。
- エ：不適切。状態に応じた身体冷却や適切な水分・塩分補給等を検討し、必要な医療につなぐ。

総合解説：熱中症が疑われる場合は、本人の申告の軽重だけで判断せず、作業離脱、冷却、連絡、必要な医療搬送を迅速に行う。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0090

6-3 安全管理 > 保護具・作業環境・事故防止 | 難易度：標準

給水装置工事の施工前に整備しておく緊急時連絡体制として、最も適切なのはどれか。

- ア．事故が起きてからインターネットで連絡先を探せばよいため、事前準備は不要である。
- イ．水道事業者、警察・消防、埋設物管理者、医療機関等、事故の種類に応じた連絡先と連絡手順を整理し、関係者に周知する。
- ウ．連絡先は現場責任者だけが知っていればよく、他の作業者への周知は避ける。
- エ．埋設物を損傷しても、水が出ていなければ管理者への連絡は不要である。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。緊急時の遅れを避けるため、連絡先・手順を事前に確認する。
- イ：適切。事故発生時に迅速に初動対応できるよう、必要な関係機関・管理者への連絡系統を事前に整理して共有する。
- ウ：不適切。必要な範囲で関係者に連絡手順を周知することが重要である。
- エ：不適切。埋設物損傷時は二次災害防止のため管理者等へ速やかに連絡する必要がある。

総合解説：事故・災害時の初動を確実にするには、事故種別に応じた連絡先、責任者、連絡順序を施工前に定め、現場関係者へ周知しておく。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0091

6-4 関係法令 > 労働安全衛生法・関係政省令 | 難易度：基礎

給水装置工事現場における労働安全衛生法上の事業者の基本的な考え方として、最も適切なのはどれか。

- ア．機械、掘削、墜落等による危険を防止するため、法令に基づく必要な措置を講じる。
- イ．安全対策は労働者個人の注意だけに委ね、設備上の対策は原則不要である。
- ウ．工期が遅れている場合は、安全措置を省略してもよい。
- エ．事故後に対策すれば足り、事前の危険防止措置は不要である。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。機械・作業方法・作業場所等に起因する危険を防止する措置が必要である。
- イ：不適切。個人の注意だけでは足りない。
- ウ：不適切。工期を理由に省略できない。
- エ：不適切。事前の危険防止が基本である。

総合解説：施工計画段階から危険源を把握し、設備・作業方法・立入管理等の措置を講じる。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0092

6-4 関係法令 > 労働安全衛生法・関係政省令 | 難易度：標準

事業者が法令に基づき安全装置の使用や立入禁止を定めた場合、労働者の対応として適切なのはどれか。

- ア．経験が長ければ、安全装置を外して自己流で作業してよい。
- イ．事業者が講じた危険防止措置に従い、必要な事項を守って作業する。
- ウ．安全措置は管理者だけの問題で、労働者には関係しない。
- エ．安全措置は事故発生時だけ有効で、通常作業では従わなくてよい。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。経験年数にかかわらず守る。
- イ：適切。労働者にも必要事項を守る義務がある。
- ウ：不適切。労働者にも遵守義務がある。
- エ：不適切。通常作業時から遵守する。

総合解説：安全は事業者だけでなく、労働者の遵守によって成立する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0093

6-4 関係法令 > 労働安全衛生法・関係政省令 | 難易度：標準

施工前の現場確認で、交通量の多い道路上の掘削、埋設ガス管、重機旋回範囲が危険要因として挙げた。最も適切な対応はどれか。

- ア．危険要因は事故後の原因分析だけに使用し、施工前には扱わない。
- イ．すべての危険を作業員の注意力だけで管理する。
- ウ．危険性・有害性を評価し、優先順位を付けて除去・低減措置を施工計画へ反映する。
- エ．危険要因が多いほど安全作業を削って工期を短縮する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。施工前評価が重要。
- イ：不適切。設備・隔離・手順等が必要。
- ウ：適切。危険源を事前評価し低減策につなげる。
- エ：不適切。安全措置削減は低減策ではない。

総合解説：危険性・有害性を洗い出し、除去・低減策を優先して施工計画へ反映する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0094

6-4 関係法令 > 労働安全衛生法・関係政省令 | 難易度：応用

新たに雇い入れた作業員を給水管の掘削・配管作業に配置する場合の安全衛生教育について、適切なのはどれか。

- ア．同業他社で働いた経験があれば一切教育しなくてよい。
- イ．教育は事故を起こした作業員だけに実施する。
- ウ．口頭で気を付けるよう言えば、作業内容の説明は不要である。
- エ．雇入れ時や作業内容を変更したときは、必要な安全衛生教育を行う。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。当該現場・作業に必要な教育を行う。
- イ：不適切。事故の有無に関係なく必要。
- ウ：不適切。危険・手順・保護具等を具体的に教育する。
- エ：適切。雇入れ時・作業変更時の教育が必要である。

総合解説：安全衛生教育は現場固有の危険、作業方法、保護具、緊急時対応等を理解させるための事前対策である。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0095

6-4 関係法令 > 労働安全衛生法・関係政省令 | 難易度：基礎

掘削面の高さが2m以上となる地山の掘削作業について、法令上の安全管理として適切なのはどれか。

- ア．法令で定める資格を有する作業主任者を選任し、その者に所定の職務を行わせる。
- イ．給水装置工事なら作業主任者は不要である。
- ウ．作業主任者は発注者が必ず選任する。
- エ．工事完了後に選任すればよい。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。高さ2m以上の地山掘削は作業主任者を選任すべき作業に含まれる。
- イ：不適切。作業条件で判断する。
- ウ：不適切。事業者が法令に基づき選任する。
- エ：不適切。対象作業時に必要。

総合解説：深い掘削では崩壊等の危険が高く、有資格者による安全管理が必要である。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0096

6-4 関係法令 > 労働安全衛生法・関係政省令 | 難易度：標準

掘削溝に土止め支保工を設置・変更・解体する作業を行う場合、適切な安全管理はどれか。

- ア．一度組めば、地山の変化や変形を点検する必要はない。
- イ．支保工の構造・地山状況を確認し、法令上必要な作業主任者の指揮の下で安全に作業する。
- ウ．掘削内に作業員がいても重機で無計画に腹起こしを外す。
- エ．余った材料なら強度確認なしに部材として使える。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。継続点検が必要。
- イ：適切。土止め支保工は崩壊防止の重要設備である。
- ウ：不適切。崩壊危険がある。
- エ：不適切。必要強度等を確認する。

総合解説：支保工は設置から解体まで計画・点検・指揮を徹底する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0097

6-4 関係法令 > 労働安全衛生法・関係政省令 | 難易度：標準

深さのある掘削部の開口周辺で作業する場合、墜落防止として最も適切なのはどれか。

- ア．口頭注意だけで物理的防護は不要である。
- イ．作業時間が10分未満なら防護不要である。
- ウ．囲い・手すり等を設け、必要に応じて安全な昇降設備や墜落制止器具を使用する。
- エ．夜間は手すりを外し、照明を明るくすれば同等である。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。設備上の措置が必要。
- イ：不適切。短時間でも危険はある。
- ウ：適切。設備による墜落防止を基本とし、必要に応じ保護具を併用する。
- エ：不適切。照明は手すりの代替でない。

総合解説：開口部では囲い・手すり・作業床等の設備対策を優先する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0098

6-4 関係法令 > 労働安全衛生法・関係政省令 | 難易度：応用

バックホウで掘削中、作業員が旋回範囲内で配管位置を確認しようとしている。最も適切な措置はどれか。

- ア．運転者が熟練者なら旋回範囲に作業員がいても問題ない。
- イ．ヘルメット着用なら接触防止措置は不要である。
- ウ．警笛を1回鳴らせば自由に立ち入らせてよい。
- エ．誘導者の配置や立入禁止措置等により、作業員が重機の危険範囲に入らないよう管理する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。死角等がある。
- イ：不適切。保護帽は接触防止の代替でない。
- ウ：不適切。継続的管理が必要。
- エ：適切。人と機械の作業範囲を分離する。

総合解説：誘導・合図・立入禁止等により重機接触を防止する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0099

6-4 関係法令＞労働安全衛生法・関係政省令 | 難易度：基礎

マンホールや地下ピット等で酸素欠乏のおそれがある場所へ入る前の対応として、適切なのはどれか。

- ア．作業環境を測定し、必要な換気・監視・保護具等の措置を講じてから立ち入る。
- イ．臭いがしなければ酸素濃度も正常と判断できる。
- ウ．一人だけ先に入れて体調を確認すれば測定の代わりになる。
- エ．入口を開けた直後なら換気や測定を省略できる。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。測定・換気等が基本である。
- イ：不適切。臭いでは判断できない。
- ウ：不適切。人体を測定器代わりにしてはならない。
- エ：不適切。自然換気だけで安全を保證できない。

総合解説：閉所では測定・換気を基本に緊急時の救出も含めて管理する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0100

6-4 関係法令＞労働安全衛生法・関係政省令 | 難易度：標準

高温環境で継続する屋外工事について、2025年6月以降の労働安全衛生規則を踏まえた対応として適切なものはどれか。

- ア．飲料水を置けば報告体制や対応手順は不要である。
- イ．熱中症のおそれがある者を早期に把握する報告体制と、重篤化を防ぐための対応手順を定め、関係者に周知する。
- ウ．本人が倒れるまで申告を待つ。
- エ．暑熱環境でも休憩・体調確認を一切調整しない。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。早期発見・対応体制も必要。
- イ：適切。報告体制・対応手順の整備と周知が必要である。
- ウ：不適切。早期把握が重要。
- エ：不適切。予防措置が必要。

総合解説：熱中症対策は水分補給だけでなく、早期発見・離脱・冷却・搬送等の手順を現場で共有する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0101

6-4 関係法令 > 労働安全衛生法・関係政省令 | 難易度：標準

切断作業で飛来物や粉じんが発生する可能性がある場合の安全対策として、最も適切なのはどれか。

- ア．保護具さえ着ければ機械の防護カバーは外してよい。
- イ．サイズや性能が合わなくても着用していればよい。
- ウ．危険源の低減・防護を行った上で、必要な保護眼鏡、防じん用保護具等を適切に選定・使用する。
- エ．損傷していても交換せず使い続ける。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。保護具は設備対策の代替でない。
- イ：不適切。適合した性能・装着が必要。
- ウ：適切。設備対策と保護具を組み合わせる。
- エ：不適切。点検・交換が必要。

総合解説：保護具は危険源の除去・隔離等と併せて適切に使う。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0102

6-4 関係法令 > 労働安全衛生法・関係政省令 | 難易度：基礎

掘削中に土止め支保工の変形と地山からの異常な湧水を確認した。最も適切な対応はどれか。

- ア．予定工程を守るためそのまま掘削を続ける。
- イ．変形部分だけ足で押して戻し作業を続ける。
- ウ．作業員を増やして短時間で掘削を終わらせる。
- エ．直ちに危険範囲から退避・作業を中止し、原因と安全性を確認して必要な補強・排水等を行う。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。崩壊危険を増大させる。
- イ：不適切。安全確認にならない。
- ウ：不適切。危険状態を解消していない。
- エ：適切。崩壊の前兆がある場合は安全確認まで作業を止める。

総合解説：異常兆候を発見したら、退避・原因確認・是正・安全確認後の再開を徹底する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0103

6-4 関係法令 > 建設業法 | 難易度：基礎

建設業法上の建設業許可について、最も適切なのはどれか。

- ア．建設工事の完成を請け負うことを営業する場合、軽微な建設工事のみを請け負う場合等を除き、建設業の許可が必要である。
- イ．公共工事にだけ許可が必要で、民間工事には一切不要である。
- ウ．給水装置工事であれば請負額に関係なく建設業法の適用外である。
- エ．建設業許可は主任技術者本人に交付される個人資格である。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。建設業法第3条の基本である。
- イ：不適切。公共・民間を問わず適用される。
- ウ：不適切。工事内容等に応じ適用を受ける。
- エ：不適切。建設業を営む者への許可である。

総合解説：給水装置工事でも、建設業法上の建設工事に該当する請負営業では許可制度を確認する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0104

6-4 関係法令 > 建設業法 | 難易度：標準

建築一式工事以外の建設工事について、建設業法施行令上の「軽微な建設工事」の請負代金額の基準として正しいものはどれか。

- ア．工事1件の請負代金の額が500万円以下である工事。
- イ．工事1件の請負代金の額が500万円に満たない工事。
- ウ．工事1件の請負代金の額が1500万円に満たない工事は工種を問わず全て軽微である。
- エ．請負代金にかかわらず、工期が30日未満であれば軽微な建設工事となる。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。「500万円に満たない」であり500万円ちょうどは含まれない。
- イ：適切。建築一式以外は500万円未満である。
- ウ：不適切。1500万円基準は建築一式工事。
- エ：不適切。軽微な建設工事は工期ではなく請負代金額等の法定基準で判断する。

総合解説：軽微な建設工事の金額基準は、建築一式以外では500万円未満である。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0105

6-4 関係法令 > 建設業法 | 難易度：標準

1件の建設工事を、建設業許可を不要にする目的で正当な理由なく2契約に分割した場合の請負代金額の扱いとして、適切なのはどれか。

- ア．各契約が500万円未満なら分割理由に関係なく必ず別々に判断する。
- イ．最も高額な1契約だけで判断する。
- ウ．同一工事を不当に分割した場合は、原則として各契約の請負代金を合計して判断する。
- エ．施工日が異なれば同一工事でも必ず別工事になる。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。不当な分割を防ぐため合計する。
- イ：不適切。原則として合計額で判断する。
- ウ：適切。正当な理由のない分割では合計額で判断する。
- エ：不適切。工事の実質で判断する。

総合解説：許可金額判定では契約形式だけでなく工事の実質を見る。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0106

6-4 関係法令 > 建設業法 | 難易度：応用

注文者が配管材料を支給する建設工事で、軽微な建設工事の請負代金額を判定する際の考え方として適切なのはどれか。

- ア．支給材料は常に0円として扱う。
- イ．施工者が購入していないので建設業法上は存在しないものとみなす。
- ウ．支給材料は重量だけで判断し価格は考慮しない。
- エ．注文者が提供する材料の市場価格や必要な運送賃を、請負契約の代金額に加えて判断する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。市場価格等を加算する。
- イ：不適切。実質的工事規模を反映する。
- ウ：不適切。市場価格等を加える。
- エ：適切。施行令は支給材料の市場価格等を加算する。

総合解説：注文者支給材料がある場合は、その市場価格等も請負代金額に加えて判断する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0107

6-4 関係法令 > 建設業法 | 難易度：基礎

建設業者が請け負った建設工事を施工するとき、建設業法上の主任技術者の役割として適切なのはどれか。

- ア．工事現場における建設工事の施工の技術上の管理をつかさどる。
- イ．水道料金の徴収を専任で行う。
- ウ．工事完成後だけ現場に入り施工中は管理しない。
- エ．発注者の財務会計を監査する。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。建設業法第26条の基本的役割である。
- イ：不適切。施工の技術上の管理が職務。
- ウ：不適切。施工中の技術管理を担う。
- エ：不適切。技術管理と無関係。

総合解説：建設業法上の主任技術者は、施工計画・工程・品質等の技術管理を担う。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0108

6-4 関係法令 > 建設業法 | 難易度：標準

元請の特定建設業者が一定規模以上の下請契約を締結して工事を施工する場合の技術者配置について、適切なものはどれか。

- ア．下請契約を締結した時点で全ての現場から技術者を外してよい。
- イ．法令の要件に該当する場合、主任技術者に代えて監理技術者を置く必要がある。
- ウ．監理技術者は水道事業者だけが選任できる。
- エ．給水装置工事では技術者配置を一切検討しなくてよい。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。適切な技術者配置が必要。
- イ：適切。一定要件では監理技術者制度が適用される。
- ウ：不適切。建設業者が配置する。
- エ：不適切。該当工事では要件確認が必要。

総合解説：工事・下請契約の規模等に応じ、主任技術者または監理技術者を適切に配置する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0109

6-4 関係法令 > 建設業法 | 難易度：標準

複数の下請業者が入る給水管敷設工事で、元請側の施工管理として最も適切なものはどれか。

- ア．下請に任せた部分は元請の工程・安全管理から完全に除外する。
- イ．業者間の連絡は不要でそれぞれ独立して作業させる。
- ウ．各下請の施工範囲、指揮命令系統、技術者、工程、安全上の役割分担を明確にする。
- エ．施工範囲は口頭で曖昧にしておく。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。元請は全体を調整する。
- イ：不適切。干渉・事故の原因になる。
- ウ：適切。複数業者が関与するほど施工体制の明確化が重要である。
- エ：不適切。責任範囲を明確にする。

総合解説：施工体制を明確にし、元請・下請間の工程・技術・安全情報を共有する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0110

6-4 関係法令 > 建設業法 | 難易度：応用

建設工事の請負契約を締結する際の考え方として適切なものはどれか。

- ア．工事内容や工期は契約後に口頭で決めればよい。
- イ．施工者が一方的に不合理な条件を押し付けても常に有効である。
- ウ．安全対策に必要な費用は契約上考慮してはならない。
- エ．工事内容、請負代金、工期、契約上の責任等を明確にし、適正な契約関係を構築する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。契約時に明確にする。
- イ：不適切。公正な契約関係が必要。
- ウ：不適切。適正施工に必要な費用・工期を確保する。
- エ：適切。契約内容の明確化が適正施工の前提である。

総合解説：適正な請負契約は工程・品質・安全を成立させる前提である。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0111

6-4 関係法令 > 建設業法 | 難易度：基礎

元請業者が、実質的に施工管理へ関与せず請け負った工事を丸ごと他社へ任せる行為について、最も適切なのはどれか。

- ア．建設業法上の一括下請負の禁止に抵触するおそれがあり、実質的な関与を確保する必要がある。
- イ．契約書に元請名が書いてあれば実質的関与がなくても常に問題ない。
- ウ．下請に技術力があれば元請の施工管理責任は必ず消滅する。
- エ．一括下請負は工期短縮になるため建設業法が推奨している。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。名義だけ元請となる丸投げは適正施工を損なう。
- イ：不適切。実態が重要。
- ウ：不適切。元請にも責任がある。
- エ：不適切。原則禁止である。

総合解説：元請は施工計画・工程・品質・安全管理等へ実質的に関与する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0112

6-4 関係法令 > 建設業法 | 難易度：標準

給水装置工事主任技術者が配置されている工事について、建設業法との関係として正しいものはどれか。

- ア．給水装置工事主任技術者がいれば建設業法上の許可や主任技術者は常に不要である。
- イ．水道法上の主任技術者制度と建設業法上の許可・技術者配置は別制度であり、該当する場合は双方の要件を確認する。
- ウ．建設業法上の主任技術者がいれば水道法上の給水装置工事主任技術者は常に不要である。
- エ．どちらも水道料金を決める制度である。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。別制度である。
- イ：適切。法体系・目的・要件は異なる。
- ウ：不適切。別制度である。
- エ：不適切。施工の適正確保に関する制度である。

総合解説：給水装置工事では、水道法と建設業法の要件を区別して確認する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0113

6-4 関係法令 > 建築基準法・道路法・河川法・消防法等 | 難易度：基礎

建築基準法における「建築設備」について、適切なのはどれか。

- ア．給水設備は建築設備に含まれない。
- イ．建築設備は昇降機だけをいう。
- ウ．建築物に設ける給水・排水設備は、建築設備に含まれる。
- エ．給水設備は建物外の道路設備だけを指す。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。給水設備は含まれる。
イ：不適切。電気・ガス・給水・排水等を広く含む。
ウ：適切。建築基準法第2条は給水・排水等を建築設備として定義している。
エ：不適切。建築物に設ける給水設備が対象。

総合解説：建物内の給水配管では水道法に加え建築設備としての規定も確認する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0114

6-4 関係法令 > 建築基準法・道路法・河川法・消防法等 | 難易度：標準

建築物内の給水配管をコンクリートに埋設し、腐食のおそれがある場合の対応として適切なのはどれか。

- ア．コンクリートに埋設すれば腐食は絶対に起こらない。
- イ．腐食した後に交換すればよく設置時の措置は不要である。
- ウ．給水管は建築設備ではないため規定と無関係である。
- エ．材質に応じ、有効な腐食防止措置を講じる。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。埋設条件により腐食することがある。
イ：不適切。設置時から対策する。
ウ：不適切。給水は建築設備に含まれる。
エ：適切。建築基準法施行令は腐食のおそれがある部分への防食措置を求める。

総合解説：建築物内配管では腐食のおそれを評価し、材質に応じた有効な防食を行う。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0115

6-4 関係法令 > 建築基準法・道路法・河川法・消防法等 | 難易度：標準

公道下に給水管を埋設し、道路上で掘削作業を行う場合の手続に関する考え方として、最も適切なのはどれか。

- ア．道路管理者の道路占用等の手続と、交通への影響がある工事について警察署長の道路使用許可等をそれぞれ確認する。
- イ．道路占用許可を取れば道路交通法上の手続は常に不要である。
- ウ．警察の道路使用許可だけあれば道路管理者への占用手続は必ず不要である。
- エ．給水管は公益性があるため公道では一切の許可が不要である。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。道路法上の占用と道路交通法上の道路使用は目的・所管が異なる。
- イ：不適切。別制度である。
- ウ：不適切。占用物件には道路法上の手続がある。
- エ：不適切。所定の手続が必要。

総合解説：公道工事では道路施設の管理と交通管理を分けて確認する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0116

6-4 関係法令 > 建築基準法・道路法・河川法・消防法等 | 難易度：応用

道路占用・掘削の許可条件で、施工時間帯、交通誘導、埋戻し・舗装復旧方法が定められている。施工管理として適切なのはどれか。

- ア．現場が忙しければ許可条件は自由に変更できる。
- イ．許可条件を施工計画へ反映し、関係者に周知して条件どおり施工・復旧する。
- ウ．道路復旧方法は給水管の品質に関係ないため無視してよい。
- エ．交通誘導は歩行者が少なければ必ず不要である。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。必要なら管理者等と協議する。
- イ：適切。許可条件は工程・安全・品質管理の前提条件となる。
- ウ：不適切。道路機能・第三者安全の確保に重要。
- エ：不適切。許可条件と現場状況に従う。

総合解説：道路工事の許可・協議条件を工程・品質・安全管理へ組み込む。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0117

6-4 関係法令 > 建築基準法・道路法・河川法・消防法等 | 難易度：基礎

河川区域内の土地を給水管のために継続して占用しようとする場合、河川法上の基本的な考え方として適切なものはどれか。

- ア．地下なら占用許可は一切不要である。
- イ．水道管なら河川管理者への手続は不要である。
- ウ．河川管理者の土地占用許可が必要となる。
- エ．道路管理者の許可があれば河川法上の許可も自動的に得る。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。地下利用でも占用に該当し得る。
- イ：不適切。所定の許可を確認する。
- ウ：適切。河川法第24条は河川区域内の土地占用に許可を求める。
- エ：不適切。管理法令・管理者が別。

総合解説：河川区域内で土地を占用する場合は河川管理者の許可を確認する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0118

6-4 関係法令 > 建築基準法・道路法・河川法・消防法等 | 難易度：標準

河川区域内で給水管関連の工作物を新設し、あわせて土地を掘削する計画について、適切なものはどれか。

- ア．土地占用許可だけあれば工作物・掘削に関する許可は一切検討不要である。
- イ．河川区域内では施工者が自由に地形を変更できる。
- ウ．小径の給水管なら河川法が適用されない。
- エ．工作物の新築等や土地の掘削等について、河川法上必要な許可を河川管理者へ確認する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。行為ごとの要件を確認する。
- イ：不適切。規制がある。
- ウ：不適切。口径だけで一律除外されない。
- エ：適切。工作物の新築等と土地掘削等にはそれぞれ許可制度がある。

総合解説：河川区域工事では占用・工作物・掘削等の許可を計画段階で確認する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0119

6-4 関係法令 > 建築基準法・道路法・河川法・消防法等 | 難易度：応用

給水装置工事で溶断・加熱作業を行う場所の近くに危険物が保管されている。最も適切な対応はどれか。

- ア．火災・爆発の危険を評価し、消防法令や施設の防火管理ルール等を確認して、火気管理・隔離等の措置を講じる。
- イ．給水装置工事なので消防法は一切関係しない。
- ウ．水を扱う工事なら火災は起こらないため火気管理は不要である。
- エ．危険物容器を作業員判断で移動すれば他の確認は不要である。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。危険物や火気を扱う場面では火災予防条件を確認する。
- イ：不適切。作業内容・場所で関係する。
- ウ：不適切。溶断等では火災危険がある。
- エ：不適切。施設管理者・法令に従う。

総合解説：給水装置工事でも火気作業や危険物が関係する場合は消防法令等を確認する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0120

6-4 関係法令 > 建築基準法・道路法・河川法・消防法等 | 難易度：標準

道路を横断して河川区域内へ給水管を布設し、建物内配管へ接続する工事で最も適切な施工管理はどれか。

- ア．最も厳しいと考えた1法令だけ守れば他法令は確認不要である。
- イ．道路法・道路交通法・河川法・建築基準法等の適用を整理し、各管理者との許可・協議条件を工程へ反映する。
- ウ．水道事業者の承認があれば道路・河川・建築の手続は全て代替される。
- エ．法令確認は工事完成後に行えばよい。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。法令は併存する。
- イ：適切。複数法令が重なるため管理主体・条件を整理する。
- ウ：不適切。各管理者の権限は別。
- エ：不適切。事前確認が必要。

総合解説：工事場所・作業内容に応じ、道路・交通・河川・建築・消防等を横断的に確認する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0121

6-5 総合施工管理 > 工程・品質・安全の総合判断 | 難易度：基礎

降雨で工程が1日遅れたため、現場責任者が「耐圧試験を省略して予定日に道路復旧する」案を出した。最も適切な対応はどれか。

- ア．予定日が最優先なので品質確認は完成後の漏水で判断する。
- イ．道路復旧だけ先に行い必要なら後日再掘削するのを標準とする。
- ウ．試験を省略せず、工程を再調整して必要な品質確認と安全な復旧を確保する。
- エ．試験記録だけ作り実試験は行わない。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。埋戻し前の検査機会を失う。
- イ：不適切。無用な手戻りになる。
- ウ：適切。工程遅延は品質検査省略の理由にならない。
- エ：不適切。虚偽記録である。

総合解説：必要な品質・安全条件を守った上で、人員・作業順序・関係者調整により工程を再構築する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0122

6-5 総合施工管理 > 工程・品質・安全の総合判断 | 難易度：標準

道路掘削前の図面にガス管の記載があるが、現地で位置が特定できていない。最も適切な判断はどれか。

- ア．図面の線から1m離れて掘れば必ず安全なので確認不要である。
- イ．重機でゆっくり掘れば埋設物確認は不要である。
- ウ．埋設物に当たった後で管理者へ連絡すればよい。
- エ．管理者へ照会し、必要な探査・試掘等で位置を確認してから本掘削へ進む。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。図面と実位置がずれることがある。
- イ：不適切。事前確認が必要。
- ウ：不適切。事故前の確認が基本。
- エ：適切。埋設物確認は重大事故防止の重要な事前工程である。

総合解説：管理者照会、図面確認、探査・試掘を組み合わせで位置を確認する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0123

6-5 総合施工管理 > 工程・品質・安全の総合判断 | 難易度：標準

予定していた管材の納入が遅れ、現場から「同じ呼び径の別製品へ無断変更したい」との提案があった。適切な対応はどれか。

- ア．性能・規格・接合方法・承認条件を確認し、必要な承認や設計変更を経てから使用する。
- イ．呼び径が同じなら材質や規格が異なっても完全に同一とみなす。
- ウ．納期優先で現場作業員が最も安い製品を選ぶ。
- エ．埋め戻せば見えないので材料変更の記録は不要である。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。呼び径が同じだけでは同等品とは限らない。
- イ：不適切。性能・施工条件が異なり得る。
- ウ：不適切。品質・設計条件を満たす必要がある。
- エ：不適切。変更記録を残す。

総合解説：代替品採用は品質・基準適合・施工方法を確認し、必要な承認を得る。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0124

6-5 総合施工管理 > 工程・品質・安全の総合判断 | 難易度：応用

強い降雨で掘削溝への流入水が増え、地山の崩壊兆候も見られる。一方、当日中に配管を終えないと工程が遅れる。最も適切なのはどれか。

- ア．作業員を増やし崩壊前に短時間で終える。
- イ．作業を中止して退避し、排水・土止め・地山の安全性を再確認した上で再開する。
- ウ．配管材料を掘削溝内へ置いて土砂を押さえる。
- エ．雨が弱まるまで掘削内で待機する。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。危険状態の人数を増やすだけ。
- イ：適切。工程より崩壊事故防止を優先する。
- ウ：不適切。適切な土止めではない。
- エ：不適切。危険区域から退避する。

総合解説：自然条件が変化したら工程を変更してでも安全を再確認する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0125

6-5 総合施工管理 > 工程・品質・安全の総合判断 | 難易度：基礎

配管接合部を埋め戻す前に必要な外観確認・耐圧確認が予定されている。施工管理として適切なのはどれか。

- ア．検査担当者が不在でも先に埋め戻す。
- イ．全区間を舗装してから再掘削して検査する。
- ウ．検査完了を確認するまで埋戻しを進めない管理点を設定する。
- エ．設計図を見るだけで検査完了とする。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。確認機会を失う。
- イ：不適切。非効率で影響が大きい。
- ウ：適切。後から確認困難になる部分は埋戻し前に検査する。
- エ：不適切。施工実態を確認する。

総合解説：工程表に検査ポイントを組み込み、未確認のまま次工程へ進まない。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0126

6-5 総合施工管理 > 工程・品質・安全の総合判断 | 難易度：標準

交通量の多い道路で給水管取出し工事を行う。施工管理として最も適切なのはどれか。

- ア．作業開始後に交通量を見てその場で規制方法を決める。
- イ．歩行者は車道へ迂回させれば安全通路不要である。
- ウ．工事車両を作業帯外の車道へ常時放置してよい。
- エ．道路管理者・警察等の条件を確認し、交通規制、作業時間帯、資機材配置、歩行者動線を工程と一体で計画する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。事前計画が必要。
- イ：不適切。安全な通行を確保する。
- ウ：不適切。交通障害になる。
- エ：適切。許可条件を工程・配置計画へ組み込む。

総合解説：道路工事では交通規制・歩行者保護・資機材搬入を工程と一体で計画する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0127

6-5 総合施工管理 > 工程・品質・安全の総合判断 | 難易度：標準

配水管からの分岐工事で一時的な断水が必要となった。最も適切な施工管理はどれか。

- ア．水道事業者と断水範囲・時間・操作手順を調整し、必要な周知を行ってから施工する。
- イ．施工業者が独断で配水管のバルブを閉める。
- ウ．断水範囲は工事開始後に確認する。
- エ．断水時間が短ければ需要者への配慮は不要である。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。供給影響がある工事は水道事業者・需要者との調整が必要。
- イ：不適切。水道事業者と調整する。
- ウ：不適切。事前把握が必要。
- エ：不適切。必要な周知を行う。

総合解説：断水を伴う作業では供給影響、周知、復旧確認まで工程に組み込む。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0128

6-5 総合施工管理 > 工程・品質・安全の総合判断 | 難易度：応用

他工事との干渉により配管経路を変更しなければならなくなった。最も適切な対応はどれか。

- ア．口頭指示だけで変更し図面や記録は元のままにする。
- イ．影響を技術・工程・安全面から評価し、必要な承認・関係者調整を行い、変更内容を記録する。
- ウ．変更による他埋設物への影響は考慮しない。
- エ．工期短縮になる変更なら基準適合確認は不要である。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。竣工時不整合になる。
- イ：適切。変更管理は品質・工程・安全全てに関係する。
- ウ：不適切。新経路の条件を再確認する。
- エ：不適切。変更後も適合確認する。

総合解説：施工条件変更時は品質・安全・法令・承認・記録を連動させる。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0129

6-5 総合施工管理 > 工程・品質・安全の総合判断 | 難易度：基礎

給水装置工事の完成時に行う総合確認として最も適切なのはどれか。

- ア．水が出ることだけ確認すれば他の検査・記録は不要である。
- イ．道路の仮復旧状態は施工者責任ではない。
- ウ．設計・変更内容との整合、試験・検査結果、道路等の復旧、安全設備撤去、記録整理を確認する。
- エ．残置した仮設材は次工事で使えるので撤去確認不要である。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。複数項目を確認する。
- イ：不適切。許可条件に従い復旧する。
- ウ：適切。完成確認は配管だけでなく周辺復旧・記録まで含む。
- エ：不適切。第三者災害を防ぐ。

総合解説：品質検査、設計整合、現場復旧、記録の完成を総合確認する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0130

6-5 総合施工管理 > 工程・品質・安全の総合判断 | 難易度：標準

施工中、予定外の障害物が見つかり、計画どおり進めると給水管の曲げ過ぎと作業員の狭隘部作業が発生する。最も適切な判断はどれか。

- ア．予定工程を最優先し管を許容範囲を超えて曲げる。
- イ．作業員に無理な姿勢で短時間だけ作業させる。
- ウ．障害物の管理者確認なしに撤去する。
- エ．作業を止めて経路・工法を再検討し、品質基準と安全条件を満たす変更案で工程を再調整する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。施工不良の原因。
- イ：不適切。災害リスクが高い。
- ウ：不適切。第三者設備損傷につながる。
- エ：適切。工程維持のため品質・安全を犠牲にしない。

総合解説：工程は品質・安全を満たす枠内で調整する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0131

6-5 総合施工管理 > 施工不良・事故原因と再発防止 | 難易度：基礎

通路試験で新設管の継手部から漏水が確認された。最も適切な対応はどれか。

- ア．止水し、接合部を露出して原因を確認し、規定の接合手順に従って再施工した上で再試験する。
- イ．漏水量が少なければそのまま埋め戻す。
- ウ．外側から接着剤を塗るだけで原因確認を省略する。
- エ．試験圧力を下げて漏れなく見える条件で合格とする。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。漏水原因を除去して再施工し品質を再確認する。
- イ：不適切。将来の破損等につながる。
- ウ：不適切。接合方式に適合しない応急処置は再発を招く。
- エ：不適切。所定の検査条件を満たす必要がある。

総合解説：不適合を見つけたら原因を特定して是正し、再試験で適合を確認する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0132

6-5 総合施工管理 > 施工不良・事故原因と再発防止 | 難易度：標準

道路復旧後に掘削部だけ沈下した。原因として埋戻しの締固め不足が疑われる。再発防止として最も適切なのはどれか。

- ア．次回から舗装を厚くするだけで埋戻し方法は変えない。
- イ．使用材料、層厚、含水状態、締固め方法・回数等を見直し、所定の施工・品質確認を徹底する。
- ウ．沈下した場所へ砂を表面から撒くだけで終える。
- エ．原因調査せず作業員個人の注意不足と決めつける。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。根本原因を残す。
- イ：適切。締固め品質は材料・層厚・機械・水分等を管理して確保する。
- ウ：不適切。内部の締固め不足を解消できない。
- エ：不適切。工程・材料等も分析する。

総合解説：沈下事故は埋戻し材・締固め層厚・機械・含水状態等を検証して再発防止する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0133

6-5 総合施工管理 > 施工不良・事故原因と再発防止 | 難易度：標準

掘削機で既設ガス管を損傷した可能性がある。最初の対応として適切なのはどれか。

- ア．施工者だけで直し管理者には知らせない。
- イ．漏えい確認のため火を近づける。
- ウ．作業を停止し、作業員・第三者を安全な場所へ退避させ、管理者・関係機関へ連絡して指示に従う。
- エ．工期が遅れるので掘削を継続し後で報告する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。重大事故につながる。
- イ：不適切。爆発・火災の危険。
- ウ：適切。二次災害防止を最優先する。
- エ：不適切。二次災害を招く。

総合解説：埋設物事故では停止・退避・区域管理・管理者連絡を優先する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0134

6-5 総合施工管理 > 施工不良・事故原因と再発防止 | 難易度：応用

寒冷地の露出配管が凍結して破損した。施工上の再発防止として適切なのはどれか。

- ア．同じ条件で同じように交換するだけでよい。
- イ．冬季だけ漏水箇所をテープで覆えば恒久対策になる。
- ウ．凍結は自然現象なので施工管理では防げない。
- エ．配管位置、保温・防寒、排水・凍結防止機能等を現場条件に応じて見直す。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。原因条件が残る。
- イ：不適切。凍結対策にならない。
- ウ：不適切。適切な防止措置が必要。
- エ：適切。凍結環境を評価し対策を見直す。

総合解説：気象条件、露出、保温、停滞水等の原因を確認して設計・施工へ反映する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0135

6-5 総合施工管理 > 施工不良・事故原因と再発防止 | 難易度：基礎

異種金属の接続付近で腐食が進み漏水した。再発防止として適切なのはどれか。

- ア．材質の組合せ、絶縁、防食処理、周囲環境を確認し、腐食機構に応じた対策を講じる。
- イ．漏水部だけ強く締め付ければ腐食原因は消える。
- ウ．異種金属接続はどの組合せでも腐食に影響しない。
- エ．腐食部を塗装せず土で厚く覆えば防食になる。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。腐食原因に応じた材料・接続・防食対策が必要。
- イ：不適切。根本原因を除去していない。
- ウ：不適切。腐食促進要因になり得る。
- エ：不適切。適切な防食でない。

総合解説：材料選定・異種金属接続・周囲環境・防食施工を含めて原因分析する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0136

6-5 総合施工管理 > 施工不良・事故原因と再発防止 | 難易度：標準

バルブを急閉した際に大きな衝撃音と配管振動が発生した。再発防止として最も適切なのはどれか。

- ア．配管を強く叩いて振動を止める。
- イ．急激な流速変化、圧力条件、弁操作、支持状態等を確認し、緩閉操作や水撃防止対策を検討する。
- ウ．一度だけなら原因確認せず放置する。
- エ．全ての弁をより速く閉じるよう指示する。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。原因対策にならない。
- イ：適切。水撃は急激な流量変化等で発生する。
- ウ：不適切。設備損傷につながる。
- エ：不適切。水撃を増大させることがある。

総合解説：弁操作、流速、圧力、配管支持、水撃防止器等を総合的に見直す。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0137

6-5 総合施工管理 > 施工不良・事故原因と再発防止 | 難易度：標準

施工後の通水で濁りが生じ、管内への土砂混入が疑われた。再発防止として適切なのはどれか。

- ア．埋設する管なので管端を開放したままでも問題ない。
- イ．濁りがあっても数日使用すれば必ず自然に安全になる。
- ウ．施工中の管端養生、器具・材料の清潔保持、接続前確認、必要な洗浄・通水確認を徹底する。
- エ．潤滑目的で現場の土を管内へ入れる。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。異物が侵入する。
- イ：不適切。原因確認・洗浄等が必要。
- ウ：適切。施工中の衛生管理が重要。
- エ：不適切。衛生上不適切。

総合解説：飲用水を通す給水管では施工中から異物・汚染防止を徹底する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0138

6-5 総合施工管理 > 施工不良・事故原因と再発防止 | 難易度：応用

耐圧試験が基準を満たさなかったが、漏水箇所が見つからない。最も適切な対応はどれか。

- ア．試験記録の数値だけ基準内に書き換える。
- イ．基準に合うまで試験圧力を下げる。
- ウ．原因不明なら自動的に合格とする。
- エ．試験方法・機器・配管系統を含めて原因を調査し、不適合を是正した上で所定条件で再試験する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。虚偽記録。
- イ：不適切。所定条件で確認する。
- ウ：不適切。不適合を解消していない。
- エ：適切。測定系の誤りも含め原因を特定する。

総合解説：試験不合格は原因調査→是正→再試験→記録の順で処理する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0139

6-5 総合施工管理 > 施工不良・事故原因と再発防止 | 難易度：基礎

作業員が掘削溝へ転落しかけたが、けがはなかった。施工管理として最も適切なのはどれか。

- ア．事故に至らなかった事例として原因を分析し、開口部防護・動線・照明・周知等の改善を行う。
- イ．けががないので記録も対策も不要である。
- ウ．本人を注意するだけで設備や手順は見直さない。
- エ．次回から同じ場所を走って通過するよう指示する。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。重大事故の予兆として活用する。
- イ：不適切。再発可能性がある。
- ウ：不適切。管理要因も分析する。
- エ：不適切。危険を増す。

総合解説：ヒヤリハットを設備・手順・教育・作業環境の改善に反映する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0140

6-5 総合施工管理 > 施工不良・事故原因と再発防止 | 難易度：標準

同じ継手不良が複数現場で繰り返されている。最も有効な再発防止の進め方はどれか。

- ア．毎回漏れた箇所だけ直し原因分析は行わない。
- イ．個々の修理に加え、材料、工具、手順、教育、検査方法の共通原因を分析し、標準手順を改訂して効果を確認する。
- ウ．担当者を変えれば必ず解決すると考え手順や工具は確認しない。
- エ．不良記録を削除して発生率を下げる。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。共通原因が残る。
- イ：適切。繰り返し不良では組織的な根本原因分析が必要。
- ウ：不適切。人的要因以外も分析する。
- エ：不適切。問題の隠蔽である。

総合解説：現象→直接原因→根本原因→是正策→標準化→効果確認まで管理する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0141

6-5 総合施工管理 > 現場事例・関係者調整 | 難易度：基礎

公道の一車線を規制して掘削する工事を計画している。関係者調整として最も適切なのはどれか。

- ア．道路管理者だけと調整すれば交通規制条件は自由に決められる。
- イ．警察だけと調整すれば道路の復旧条件は無視できる。
- ウ．道路管理者の占用・施工条件と、警察の道路使用・交通規制条件を確認し、矛盾がない工程・規制計画を作る。
- エ．許可条件が食い違う場合は施工者が都合のよい方だけ採用する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。道路交通法上の条件も確認する。
- イ：不適切。道路管理者の条件も必要。
- ウ：適切。道路施設管理と交通管理は別権限である。
- エ：不適切。関係者間で再調整する。

総合解説：道路管理者・警察・水道事業者等の条件を一つの施工計画へ統合する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0142

6-5 総合施工管理 > 現場事例・関係者調整 | 難易度：標準

試掘で図面がない通信管路が見つかった。最も適切な対応はどれか。

- ア．不要な管と判断して切断し後で所有者を探す。
- イ．給水管の方が新しいので既設管路を押し曲げる。
- ウ．写真だけ撮り接触しながら予定どおり重機掘削する。
- エ．作業を止めて対象物の管理者を確認し、保安措置・離隔・施工方法を協議してから再開する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。重大障害につながる。
- イ：不適切。管理者協議が必要。
- ウ：不適切。安全な方法を確認する。
- エ：適切。管理不明の埋設物を独断で移設・撤去してはならない。

総合解説：未知の埋設物は識別・管理者確認・協議・保護方法決定後に施工する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0143

6-5 総合施工管理 > 現場事例・関係者調整 | 難易度：標準

集合住宅の給水管改造で2時間の断水が予定されている。関係者調整として適切なのはどれか。

- ア．水道事業者・建物管理者と調整し、断水日時・対象・注意事項・連絡先を事前に利用者へ周知する。
- イ．当日断水してから掲示を出す。
- ウ．工事会社の内部工程なので利用者には知らせない。
- エ．断水時間は適当に伝えればよい。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。生活影響を減らし混乱を防ぐ。
- イ：不適切。原則事前周知する。
- ウ：不適切。給水影響がある。
- エ：不適切。正確に伝える。

総合解説：断水調整では利用者への事前周知、緊急連絡先、復旧確認まで計画する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0144

6-5 総合施工管理 > 現場事例・関係者調整 | 難易度：応用

施工中、発注者から「使い勝手のため水栓位置を変更してほしい」と口頭で依頼された。最も適切な対応はどれか。

- ア．発注者の希望なので基準や図面を確認せず即施工する。
- イ．変更による配管・基準・費用・工程への影響を確認し、必要な設計変更・承認を正式に行ってから施工する。
- ウ．変更は全て拒否し合理的な協議もしない。
- エ．変更部分だけ記録せず元図面のまま完成扱いとする。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。基準不適合等の原因。
- イ：適切。口頭依頼をそのまま施工せず技術・契約・手続を整理する。
- ウ：不適切。影響評価の上で協議する。
- エ：不適切。実施工と一致させる。

総合解説：変更要求は技術適合、工期、費用、関係者承認を整理し記録して施工する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0145

6-5 総合施工管理 > 現場事例・関係者調整 | 難易度：基礎

道路工事中に既設給水管を破損し、大量の漏水が発生した。最も適切な初動はどれか。

- ア．施工者だけで配水管バルブを探して無断操作する。
- イ．漏水を放置して予定作業を先に終える。
- ウ．作業を安全に停止し、水道事業者へ直ちに連絡して止水・交通・第三者安全を確保し、復旧手順を調整する。
- エ．事故報告を避けるため土で埋めて隠す。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。水道事業者と調整する。
- イ：不適切。陥没・浸水等につながる。
- ウ：適切。二次災害と供給影響を抑えるため迅速な連携が必要。
- エ：不適切。重大な二次被害を招く。

総合解説：緊急漏水では安全確保、管理者通報、止水、影響確認、復旧、原因記録を行う。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0146

6-5 総合施工管理 > 現場事例・関係者調整 | 難易度：標準

河川区域内で施工予定だったが、大雨による増水が予想され、河川管理者から施工延期の指示があった。最も適切な対応はどれか。

- ア．工期優先で夜間に無断施工する。
- イ．施工者が水位を低いと判断すれば管理者指示を無視してよい。
- ウ．増水中に作業員を増やして工事時間を短縮する。
- エ．河川管理者の指示に従って工程を変更し、増水後の安全条件を再確認してから施工する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。許可条件等に反する。
- イ：不適切。管理者と調整する。
- ウ：不適切。危険を増大させる。
- エ：適切。河川管理上・安全上の条件を優先する。

総合解説：河川区域工事では水位・気象・管理者指示を工程条件として扱う。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0147

6-5 総合施工管理 > 現場事例・関係者調整 | 難易度：標準

狭い場所で給水配管作業と電気工事の高所作業が同時に予定され、上方から工具落下の危険がある。最も適切な調整はどれか。

- ア．作業区域・時間を分離するなど工程を調整し、上下同時作業による危険を除去・低減する。
- イ．互いに注意するよう声を掛けるだけで同時作業を続ける。
- ウ．下側作業員だけヘルメットを二重にする。
- エ．電気工事側に連絡せず給水側だけ作業速度を上げる。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。工種間の干渉リスクを工程段階で減らす。
- イ：不適切。物理的・工程的分離を優先。
- ウ：不適切。落下物防止そのものが必要。
- エ：不適切。業者間調整が必要。

総合解説：同時作業では作業範囲、上下関係、機械動線、時間帯を調整する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0148

6-5 総合施工管理 > 現場事例・関係者調整 | 難易度：応用

住宅地の道路工事で騒音・振動への苦情が発生した。施工管理として最も適切なのはどれか。

- ア．工事許可があれば苦情は一切無視する。
- イ．作業時間、機械・工法、周知内容を確認し、発注者・道路管理者等と調整して可能な低減策を講じる。
- ウ．苦情を言った住民だけ通行禁止にする。
- エ．騒音を隠すため夜間に同じ作業を行う。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。周辺影響の低減や説明が重要。
- イ：適切。第三者への影響も現場管理の対象である。
- ウ：不適切。不適切な対応。
- エ：不適切。影響が増えることがある。

総合解説：事実確認、許可条件、施工方法の見直し、適切な説明・周知を行う。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0149

6-5 総合施工管理 > 現場事例・関係者調整 | 難易度：基礎

工事完成後の引渡し・関係者調整として最も適切なものはどれか。

- ア．完成後は施工記録を全て廃棄し口頭説明だけにする。
- イ．設計変更があっても元図面だけ引き渡す。
- ウ．完成図、試験・検査記録、変更事項、維持管理上の注意点等を整理し、必要な関係者へ正確に引き継ぐ。
- エ．試験不合格記録だけ削除して合格記録だけ残す。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。記録を残す。
- イ：不適切。実施工と一致させる。
- ウ：適切。施工情報を維持管理へつなげる。
- エ：不適切。不適合・是正履歴も重要。

総合解説：何をどのように施工・検査・変更したかを正確に引き継ぐ。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08

0150

6-5 総合施工管理 > 現場事例・関係者調整 | 難易度：標準

水道事業者、道路管理者、警察、埋設物管理者からそれぞれ施工条件が示された。条件の一部が工程上両立しない。最も適切な対応はどれか。

- ア．最も作業しやすい条件だけ採用し他は無視する。
- イ．工事を始めてから現場判断で条件を変更する。
- ウ．記録上だけ条件を満たしたことにする。
- エ．関係者へ矛盾点を提示して再協議し、安全・品質・法令条件を満たす施工計画へ調整する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。条件違反になる。
- イ：不適切。事前に整合を取る。
- ウ：不適切。実施工の安全・適法性がない。
- エ：適切。条件の矛盾を独断で処理せず正式に調整する。

総合解説：複数の技術・法令・第三者条件を一つの実行可能な施工計画へ統合する。

対象：令和8年度（2026年度） / 基準日 2026-09-08